

箕輪都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全
の方針の変更について

平成 24 年 2 月 9 日提出
長野県都市計画審議会長

23 都第 349 号
平成 24 年 1 月 24 日

長野県都市計画審議会長 様

長 野 県 知 事

箕輪都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全
の方針の変更について

このことについて、都市計画法第 21 条第 2 項の規定において準用する同法第 18 条第 1 項の規定により、次のように審議会に付議します。

箕輪都市計画

(箕輪町)

都市計画区域の整備、開発及び保全の方針

(案)

長野県

変 更 理 由 書

「箕輪都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」は、平成16年3月の策定以降、約8年が経過したところです。

今般、平成19年度に実施した都市計画法第6条の規定に基づく都市計画に関する基礎調査の結果等を踏まえ、当該都市の発展の動向、当該都市計画区域における人口、産業の現状及び将来の見通し等を勘案し、主要な土地利用、都市施設等についておおむねの配置、規模等を示し、一体の都市として整備、開発及び保全を図るため、本案のとおり変更するものです。

目次

	頁
箕輪都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更.....	1
1. 都市計画の目標.....	1
1－1 都市計画区域の範囲と目標年次.....	1
1) 都市計画区域の範囲.....	1
2) 目標年次.....	1
1－2. 都市づくりの基本理念.....	2
1) 都市づくりの基本理念.....	2
1－3. 地域毎の市街地像.....	3
1) 地域毎の市街地像.....	3
2. 区域区分の決定の有無及び区域区分を定める際の方針.....	4
2－1. 区域区分の決定の有無.....	4
2－2. 区域区分の方針.....	5
1) おおむねの人口.....	5
3. 主要な都市計画の決定の方針.....	6
3－1. 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針.....	6
1) 主要用途の配置の方針.....	6
2) 土地利用の方針.....	6
3－2. 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針.....	9
1) 交通施設の都市計画の決定の方針.....	9
2) 下水道及び河川の都市計画の決定の方針.....	11
3－3. 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針.....	12
1) 基本方針.....	12
2) 主要な緑地の配置の方針.....	12
3) 実現のための具体の都市計画制度の方針.....	14
計画付図	
1. 都市構造図.....	15
2. 都市施設等配置図.....	16

箕輪都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更

都市計画区域の整備、開発及び保全の方針を次のように変更する。

1. 都市計画の目標

本計画は、都市づくりに対する合意形成の促進を図るため、箕輪都市計画区域を対象として、県が広域的見地から、関係市町村や住民の意向を反映しながら、都市計画の目標とその実現に向けた基本的な方針を示すものである。

1－1 都市計画区域の範囲と目標年次

1) 都市計画区域の範囲

都市計画区域の名称 : 箕輪都市計画区域
対 象 市 町 村 : 上伊那郡箕輪町
範 囲 : 上伊那郡箕輪町の一部

2) 目標年次

都市計画の基本的な方向 : 平成 42 年
都市施設などの整備目標 : 平成 32 年（中間年：平成 27 年）

1-2. 都市づくりの基本理念

1) 都市づくりの基本理念

箕輪都市計画区域は上伊那地方の北部に位置し、交通の便の良さを活かして一般国道 153 号バイパス沿線を中心として開発が進んでおり、自然環境豊かな田園景観と産業振興とが共存するという特徴を持った地域である。

上伊那圏域全体の基本理念は、

「伊那谷らしさを未来へ」

～自然・生活・産業が調和した広域連携による快適生活圏づくり～

としつつ、本区域の将来像は、

「人・地域が輝き 創造と活力あふれるまち 箕輪」

～環境にやさしく、安心、安全、快適に暮らせるまちづくり～

とする。

その実現をめざす骨子（施策の方針等）は次のとおりとする。

(1) うるおいと安らぎに満ちた環境共生都市づくり：自然に対する方針

伊那谷の景観を代表する雄大な森林地帯と広大な田園地帯の保全とともに、市街地内の緑化の推進や集落内等の郷土色に満ちた家並みの形成など、地域性豊かな自然的利用地と暮らしの場との環境的・景観的な調和による、うるおいと安らぎに満ちた環境共生都市の創造をめざす。

また、温室効果ガスの排出削減等を図り、持続可能な低炭素都市づくりをめざす。

(2) ふれあいともてなしの心が支える快適生活都市づくり：生活に対する方針

圏域特有の歴史・伝統や気候・風土に育まれ、培われてきた人と自然、あるいは人と人との出会い、ふれあいの場として、社会基盤施設整備の促進や箕輪町セーフコミュニティ推進事業などによる社会的環境の改善、向上などに努め、誰もが安心していつまでも暮らし続けたいような、ふれあいの大切さやもてなしの心が支える快適生活都市の実現をめざす。

また、地震や風水害などの自然災害による被害を最小限に抑えるため、ハード・ソフト両面からの対応を進め、災害に強い都市の実現をめざす。

併せて、すべての人が安全・快適で健やかな生活を営むことができるよう、徒歩、自転車利用の環境整備や公共交通機関等の利便性を高め、集約型都市構造の実現をめざす。

(3) 魅力と活力があふれる持続的発展都市づくり：産業に対する方針

地域的な既存資源である自然的環境を活かした環境教育や体験学習などの新たな機能の導入・強化など、時代的な潮流に応じた農林業経営の多面化・多機能化を図るとともに、商業、工業、観光・レクリエーション産業などの各産業にふさわしい立地環境を整えながら、これら地域特性を活かした各種地場産業の機能連携の強化などにより都市全体としての魅力を拡大し、地域に関わる人々の活力にあふれた持続的発展都市の実現をめざす。

(4) 役割分担と機能連携で築いていく広域連携都市づくり

都市を構成する各市町村特有の歴史・伝統や気候・風土に応じた地域的な役割を十分尊重しつつ、これからも担うべき役割とともに、その機能的な連携の強化により、個性豊かな複数の市街地が連担する圏域特性を活かした広域連携都市の実現をめざす。

1－3. 地域毎の市街地像

1) 地域毎の市街地像

(1) 山岳地域

山岳地域については、まとまりある規模の山林が持つ重要かつ多様な機能の継承をめざし、自然環境の保全に努めると同時に、広域的な観点からみた圏域の魅力の向上をめざし、レクリエーション的な有効活用の促進に努める。

(2) 里山地域

人々の身近な緑地である里山地域については、地域的な文化や風土に培われた伝統的な里山景観の保全に努めると同時に、日常的な暮らしに溶け込んだ自然環境との共生の場として、学習機能やレクリエーション機能の導入、あるいは、その受け入れ体制の拡充などにより、多目的型森林への移行・育成に努める。

(3) 集落等

既存集落等については、周辺農地と一体となり形成されてきた風土的な集落景観を保全すると同時に、周辺農地と調和を図りつつ、市街地内とは異なる多自然型の環境に位置する住宅地であることに留意しながら、その生活環境の拡充・向上に努める。

(4) 農業地域

農業地域については、集落等と一体的に形成されてきた風土的な景観の保全に努めるとともに、「長野県農業振興地域整備基本方針」に基づき、農業生産を担う基盤としての農用地の保全を図る。

(5) 中心市街地

中心市街地等については、各地特有の個性や特徴を活かしながら郊外型の大規模施設等との棲み分けを明らかにすることにより、賑わいと魅力ある商店街づくりに努めると同時に、高齢社会の進行など将来的な社会経済情勢を見据えた街中での安全性・快適性の向上を図り、従来から担ってきた都市の中心部としての役割である地域に暮らす人と人、あるいは域外から訪れる人との出会い・ふれあい・交流機能などの強化・促進に努める。

(6) 市街地地域

市街地地域については、住居系用途と産業系用途の区分など、それぞれの利用形態や立地環境にふさわしい土地利用や建物用途の適正化・純化とともに、市街地内全体に対する周辺環境と調和した景観形成に努め、さらに、市街地としての魅力を高める社会基盤施設の整備を促進し、より良い生活・産業環境の改善に努める。

2. 区域区分の決定の有無及び区域区分を定める際の方針

2-1. 区域区分の決定の有無

本都市計画に区域区分を定めない。

なお、区域区分を定めないとした根拠は次のとおりである。

① 県による同一基準での判断結果

県では、人口の動向、土地利用の状況等に着目し、県下同一基準に基づいて、本区域における区域区分の必要性をやや高いと判断した。その概要は以下のとおりである。

- ・市街地（用途地域）内の人口増加数よりも市街地外の人口増加数の方が多い。
- ・市街地外での農地転用状況をみると長野県の平均よりも小さいことから、市街地外への宅地化の拡散の傾向が見られない。
- ・人口は伸びており、2・3次産業従業者数の伸び率も高い。
- ・市街地内の道路面積率は住宅地における準値的な目安より小さく、市街地内都市的土地利用率は県平均より低く、計画的な市街地整備の必要性がある。

② 地域特性を考慮した区域区分の検討

本区域の市街地外のうち、まとまりのある優良農地・森林等は農業振興地域の整備に関する法律に定められた農用地区域、森林法に定められた地域森林計画対象森林、保安林等他法令によって指定されている。

また、用途地域を市街地整備の中心として位置づけ、箕輪町が制定した「箕輪町環境保全条例」により規制・誘導することで土地利用の区分を明確にしつつ、計画的な土地利用を推進しており、今後もこの方策を継続し、周辺環境と調和したまちづくりを進めるため、急激かつ無秩序な市街化は進展しないものと考えられる。

③ 区域区分以外の各種都市計画手法の適用を前提として「区域区分」は行わない

本区域は、①では区域区分の必要性はやや高いと判断されたが、②に示す地域特性を踏まえ、急激な人口増加や市街化は考えにくい。よって、区域区分以外の都市計画手法による土地利用の規制・誘導を進め、必要な都市基盤の整備・充実を図るとともに、周囲の環境と調和した計画的な土地利用を図る。

このような本区域の状況と考え方を踏まえて、以下のような方針とする。

本区域は、今後、他の法令との適切な連携のもとで区域区分以外の都市計画手法、建築基準法に基づく制度の活用等により、計画的な土地利用の実現が可能と判断し、区域区分を定めない。

(参 考)

「区域区分」とは

「区域区分」とは、無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため、都市計画区域を、優先的、計画的に市街化を図る「市街化区域」と市街化を抑制する「市街化調整区域」とに区分することで、一般に「線引き」と言われている。

「区域区分」を「する」か「しない」かは、県が判断

平成12年5月の改正以前の都市計画法では、「区域区分」を「する」か「しない」かは、国が法律によって定め、当分の間、一定の条件を満たす都市計画区域を対象として、限定的に実施されてきた。しかし、高度成長期の「都市化社会」から安定・成熟した「都市型社会」への移行など、近年の社会経済情勢の大きな変化を踏まえ、平成12年5月の都市計画法の改正により、「区域区分」については、広域的観点から県が、地域の状況に応じて区域毎に判断することとなった。

2-2. 区域区分の方針

前項で記述のとおり本区域では区域区分は行わないため、本項目に対する記述は要しないが、本区域の基本理念に基づき、計画的なまちづくり実現に向け、今後の人口について、以下のとおり参考表記する。

1) おおむねの人口

本区域の将来におけるおおむねの人口を、次のとおり想定する。

表－1. おおむねの将来人口

年次 区分	平成 17 年 (基準年)	平成 27 年 (中間年)	平成 32 年 (目標年)
都市計画区域内人口	26.3 千人	おおむね 26.4 千人	おおむね 26.1 千人

(注) 平成 17 年基準年人口は「国勢調査」及び「都市計画基礎調査」による統計値。

平成27・32年欄の都市計画区域内人口は、国立社会保障・人口問題研究所によるコーホート要因法により算出した行政区域人口から、回帰式による都市計画区域外人口を除いて算定。

3. 主要な都市計画の決定の方針

3-1. 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針

1) 主要用途の配置の方針

(1) 住宅地

一般国道 153 号に沿って形成されている既成の住宅市街地については、生活道路や都市公園などの社会基盤施設の整備を進めつつ、良好な居住環境が備わった自然環境と共生する低層住宅地の形成を図る。

今後も増加が見込まれる新たな住宅需要については、既成市街地北端部から J R 飯田線沢駅周辺までの地域の計画的な市街化により対応を図る。

田園地帯に点在する既存集落についても、農業関連施策等との調整を図りつつ、居住環境の改善・向上に努め、新たな住宅需要への対応を図る。

(2) 商業地

J R 飯田線伊那松島駅周辺の商業地については、本都市の中心地区として商業・業務系施設や文化施設等の都市機能施設の集積を図り、都市内交流拠点としての機能強化に努める。

J R 飯田線木下駅周辺については、立地特性に応じた近隣商業施設の集積を図る。

一般国道 153 号バイパス沿いの沿道型商業施設の集積地については、多大な自動車交通量に配慮した広域幹線道路沿道部にあり、上伊那圏域における都市型産業の中心部にふさわしい風格ある沿道環境・景観の創出に努める。

(3) 工業地

工業団地などの既存の工業集積地については、周辺環境との調和に努めるとともに、市街地や交通拠点施設等との連絡機能の強化など、生産基盤の拡充を図る。

新たな工業用地の需要については、周辺土地利用との調整を図りつつ、既存の工業団地の拡大とともに、良好な広域交通利便性を有している中央自動車道伊北インターチェンジ周辺や一般国道 153 号バイパス沿道部などについて計画的な土地利用転換を図る。

2) 土地利用の方針

(1) 土地の高度利用に関する方針

① 中心市街地の活性化

中心市街地は、きめ細かなまちづくりを計画的に推進するため、地区計画制度等の活用を図り、歩行者系移動環境の改善、空店舗等のふれあい・交流施設、あるいは共同駐車場等への転用など既存資源を利用した社会基盤施設の拡充を図る。

また、これと同時に、「市街地総合再生計画」を策定するなど、ハード・ソフト両面からの総合的・計画的な施策の展開により、地域特性とともに高齢社会にふさわしい安全性・快適性・利便性を備えた人々の交流拠点としての魅力を高め、その活性化に努める。

さらに、都市的機能の強化と同時に、商業地域等としての良好な生活利便性を活かし、高齢者や若年者世帯向け住宅などの集合住宅等の立地誘導を図り、定住人口の増加対策に努める。

②幹線道路沿道の環境整備

大型の商業・サービス施設や業務施設などの集積が進む幹線道路等沿道部については、地区計画等、建物用途の規制が可能な都市計画制度の導入など、地域社会にふさわしい施設の立地誘導策を確立し、農業関連施策等との調整を図りつつ、良好な市街地環境の形成に努める。

③都市基盤施設の拡充

高齢社会の進行を見据えた居住者等の生活利便性や快適性の向上及び大規模災害時における地域的対策の充実、さらに、産業関連交通の安全かつ円滑な処理や就業環境の向上など、生活・産業環境の向上を図るため、面的な市街地環境の改善・向上が期待し得る土地地区画整理事業や地区計画の設定などの都市計画制度を活かしながら、幹線道路等を補完する道路体系や都市公園などの各種都市基盤施設の整備を推進する。

(2)居住環境の改善又は維持に関する方針

既存集落等は、段丘崖緑地などをも含め、広域的に共通する環境・景観保全条例等の制定なども視野に入れながら、その保全に努める。

また、農林業関連施策等との調整を図りつつ、住宅需要の多様化やグリーンツーリズムへの対応などにも配慮しながら、良好な居住・生活環境の維持・創出をめざし、開発許可制度の他、地域特性に応じたきめ細かな集落づくりをめざす集落地区計画制度や集落にふさわしい建築物に規制・誘導する特定用途制限地域制度、建築形態規制（容積率や建ぺい率制限）の強化・見直しなど、集落特性に応じた都市計画制度等の導入などにより生活環境の改善・向上に努める。

(3)優良な農地との健全な調和に関する方針

農業地域は、「長野県農業振興地域整備基本方針」に基づき、今後とも優良な農地として保全する。また、開発許可制度、特定用途制限地域制度、建築形態規制（容積率制限や建ぺい率制限）の見直しなど、都市計画制度の導入を含め、無秩序な市街化・宅地化の進行を抑制しつつ、広域的に共通する環境・景観保全条例等の制定なども視野に入れながら、まとまりある規模での保全に努める。

耕作放棄地については、耕作放棄地解消計画に基づき解消に向けた取組を推進するとともに、都市と農村の交流の場としての利用を図るなど、多様な活用方策を推進し、有効活用に努める。

(4)災害防止の観点から必要な市街地の抑制に関する方針

急傾斜地の崩壊、土石流、地すべりの土砂災害のおそれのある地域については、住民の生命及び身体を保護するため、建築物の立地抑制等を図る区域を「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等に指定することにより、適切な土地利用を図る。

(5) 自然環境形成の観点から必要な保全に関する方針

① 山岳地域

山岳地域の大半を占めている森林は、森林法や箕輪町水源保護条例などにに基づきながら樹木の健全な育成を図り、広域的に共通する環境・景観保全条例等の制定なども視野に入れながら、まとまりある規模での自然環境保全に努める。

また、水と緑による美しい景観をなす沢川沿いから箕輪ダム・もみじ湖周辺にかけての地域や広く伊那谷を見渡せる萱野高原などの既存の観光・レクリエーション資源等については、生物多様性の保全に留意しながら、人と自然、人と人とが出会い、ふれあう緑の交流拠点あるいは、環境学習等の場としての機能強化や多面的活用を図る。

② 里山地域

里山地域は、森林法に基づく林地開発許可制度の運用の他、緑地保全地域の指定等、都市計画制度の導入などにより、幹線道路等沿道を中心とする無秩序な施設立地や森林の開発を抑制しつつ、広域的に共通する環境・景観保全条例等の制定なども視野に入れながら環境及び景観の保全に努める。

また、ながた自然公園やみのわ温泉、赤そばの里などの既存施設に、天竜川をはじめ深沢川、帯無川などの河川空間を取り込んだ水と緑のネットワークの形成や公共交通サービスの機能強化などをにらみつつ、その立地特性を活かした保健文化機能の強化や、農業その他の地場産業との機能連携をめざす。

さらに、それを踏まえて、森林体験や環境学習の場、グリーンツーリズムの場、生物多様性の保全・再生の場などとして、自然と人が共生する多目的・多機能型森林地帯の形成を図る。

(6) 計画的な都市的土地利用の実現に関する方針

一般国道 153 号バイパス沿道部や中央自動車道伊北インターチェンジ周辺部など、交通利便性に優れ都市的利用地へ移行しつつある地域又はその可能性が高い地域などについては、「農業振興地域の整備に関する法律」や既に実施されている農業関連施策などとの調整を図りつつ、土地利用はもとより景観性や風紀の面などからもみた地域にふさわしい良好な都市環境の維持・向上をめざす。

このため、地区計画や特定用途制限地域の指定、用途地域の見直しなど、立地特性に応じた都市計画制度等の導入による総合的かつ計画的な土地利用転換に努める。

用途地域外の白地地域建築形態規制については、基本的に農業等との健全な調和を図りながら適切に規制・誘導する。おもに、辰野町と南箕輪村間の一般国道 153 号バイパス沿いの伊北インターチェンジ付近や南箕輪村付近については、商工業用地として見合った容積率・建ぺい率・斜線制限とし、さらに里山地域・既存集落地域はそれに見合った容積率・建ぺい率・斜線制限とする。

3-2. 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針

1) 交通施設の都市計画の決定の方針

(1) 基本方針

① 交通体系の整備の方針

当地域の主要な交通手段は自動車であり、既存道路の改良とともに広域的な連絡強化が求められる。

当地域では、中央自動車道が広域連携軸としての役割を担っており、それを踏まえ、地域の南北軸を形成する一般国道 153 号及び同バイパスをはじめ、主要地方道伊那箕輪線及び伊那辰野停車場線、一般県道与地辰野線、町道 1 号線（広域農道）の機能強化に努める。

また、中央自動車道伊北インターチェンジや駅前広場などの交通結節点及び地域の中心部や主要な広域的施設、観光・レクリエーション施設、さらには広域避難地などを有機的に連携する都市内交通体系の拡充を図る。

これら広域幹線的な道路機能を補完し、生活や産業を支える既成市街地内等の都市計画道路については、整備の促進に努め、道路網体系の整備により、交通利便性を高めるとともに、温室効果ガスの排出量削減を図り、低炭素都市づくりをめざす。

なお、J R 飯田線各駅の駅前広場等については、交通結節点であると同時に、人と人との交流拠点としても捉えるとともに、高齢社会に対応するため、引き続き公共機関の再編や利用促進を図る。

② 整備水準の目標

■ 道 路

都市計画道路の見直しを行ったうえで、優先的に整備すべき骨格を成す道路の整備を行い、交通処理機能の強化を図ると同時に、高齢社会の進行を見据えた歩行者移動空間のユニバーサルデザインの導入や地域の風土になじんだ樹種による緑化など、道路景観の演出などにも配慮する。

＊ユニバーサルデザイン： 障害の有無、年齢、性別、国籍、人種等にかかわらず、多様な人々が気持ちよく使えるように、あらかじめ都市や生活環境を計画しようとする考え方。

■ 駐車場

駐車需要の高い、J R 飯田線伊那松島駅周辺については、収容台数 6 台の公共駐車場及び収容台数約 100 台の公共駐輪場が整備済みであるが、今後さらに、箕輪町中心市街地活性化基本計画に基づき整備を進める。

(2) 主要な施設の配置の方針

① 道路

■ 主要幹線道路

県内外の圏域間を結ぶ広域的な交通、物流等の円滑な流れを担う道路、広域環状道路として市街地形成に寄与する道路、地域の振興、観光利用等の推進を図るための道路を主要幹線道路として位置付け、地域交通の利便性の向上、機能強化を図る。

- ・中央自動車道
- ・都市計画道路 3・3・1 号 東部線（一般国道 153 号バイパス）
- ・都市計画道路 3・4・2 号 国道線（一般国道 153 号）

■ 幹線道路

主要幹線道路を補完し、周辺区域との交通や区域内を連絡し、都市構造の骨格形成を担う道路を幹線道路と位置付け、区域交通の利便性の向上、機能強化を図る。

- ・都市計画道路 3・5・5 号 木下三日町線（一般県道美篤箕輪線、町道 8 号線）
- ・都市計画道路 3・5・6 号 十沢線（主要地方道伊那辰野停車場線、町道 5 号線）
- ・都市計画道路 3・5・7 号 南部西部線（一般県道美篤箕輪線、町道 4 号線）
- ・町道 1 号線（広域農道）

(3) 主要な施設の整備目標

おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設等は、次のとおりとする。

表－2. おおむね 10 年以内に整備を予定する施設

種 別	名 称 等
道 路	・都市計画道路 3・3・1 号 東部線（一般国道 153 号バイパス） ・主要地方道伊那箕輪線 ・主要地方道伊那辰野停車場線

2) 下水道及び河川の都市計画の決定の方針

(1) 基本方針

① 下水道及び河川の整備の方針

これからの市街化の動向等を見据えつつ、河川等の水質保全とともに生活環境の改善を図り、健全な都市環境の形成を図る。

また、降水時の雨水等の流出の抑制し、災害の発生を未然に防止すべく、森林や農地の保全を含む総合的な流出抑制策を講ずる。

■ 下水道

下水道（汚水）については、公共下水道事業及び浄化槽の設置など整備普及に努める。

下水道（雨水）については、雨水対策事業を進める。

■ 河 川

河川については、流域内の土地利用の動向、地域社会と河川との関わり、市街地での水害に対する安全確保の状況等を踏まえた治水対策を進める。

② 整備水準の目標

■ 下水道

下水道（汚水）については、未普及地域について整備を進め、計画区域内の面整備を完了させる。下水道（雨水）については、整備を進める。

■ 河 川

河川については、一級河川の治水機能の向上をめざすとともに、その他河川を含め、親水性の向上と周辺環境や景観と調和した多自然川づくりに努める。

(2) 主要な施設の配置の方針

■ 下水道

公共下水道は分流式とし、未普及地区について引き続き整備を進める。豪雨時における災害発生を防止すべく、沢・大出・松島地区の雨水管渠整備を進める。

箕輪浄水苑は、人口の定着状況や処理区域内の面的整備事業などの進捗にあわせ、段階的に整備する。

■ 河 川

一級河川については、河川の適正な維持管理、災害時の迅速な対応及び水防活動等への協力などに努め、民生の安定を図る。

また、河川整備計画に基づいて治水安全度の向上に努める。

(3) 主要な施設の整備目標

おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設等は、次のとおりとする。

表－3．おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設

種 別	名 称 等
下水道	箕輪町公共下水道箕輪処理区(汚水及び雨水)
	箕輪町特定環境保全公共下水道北部処理区(汚水及び雨水)

3-3. 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針

1) 基本方針

上伊那圏域は、2つのアルプスをはじめとする山岳地域と天竜川に面して広大な広がりを持っている農業地域とにより、特徴的な自然的環境を有している。

これら自然的環境を形成する緑地や公園は、圏域あるいは各都市のなかで、環境保全機能をはじめ、レクリエーション機能、防災機能、景観構成機能など、立地特性や利用特性に応じた様々な役割を担っている。

よって、これら自然的環境資源については、期待する機能ごとに系統化して捉え、各機能のより効果的な活用に努めるとともに、本区域全般の自然的環境について生物多様性の保全を図り、人と自然が共生する都市づくりをめざす。

【緑地の確保水準目標】

- ・都市にうるおいややすらぎをもたらす緑の骨格的資源である森林地帯の保全・育成、公園緑地等の整備・保全を図る。
- ・市街地周辺に広がる田園地帯や森林地帯に入り組んだ田切地形に連なる集落地域等については、自然環境と一体的に捉えた環境整備を図る。
- ・天竜川や沢川、深沢川などの主要な河川については、治水機能にも十分留意しながら親水性の向上に努める。

表-4. 緑地確保目標水準

緑地の確保目標水準 平成32年	将来市街地に対する割合	都市計画区域に対する割合
	約20% (約120ha)	約20% (約3,160ha)

2) 主要な緑地の配置の方針

(1) 環境保全系統

① 森林地帯

本都市外縁の森林地帯は、伊那谷らしさを象徴する骨格的緑地として位置づけ、動植物の生息・生育地や都市的活動による環境負荷を軽減する場など、その存在機能を将来的にも保持・継承すべく、保全に努める。

② 天竜川・沢川他、河川沿い

天竜川やもみじ湖を含む沢川などの主要な河川及びその周辺は、都市にうるおいと安らぎをもたらす水と緑の環境軸として位置づけ、緑の拠点等を効果的に連携するネットワーク（緑道やウォーキングロード等を含む）の形成に努める。

③ 集落・農業地帯

集落内の屋敷林や段丘崖緑地及び農業地帯は、森林地帯と一対として伊那谷らしさを象徴する自然的環境地帯として位置づけ、耕作放棄地等の有効利活用を含め、その保全、多機能化を図る。

(2)レクリエーション系統

①都市公園

総合公園や運動公園などの都市基幹公園は、都市内に暮らす人々を主な利用対象とする主要レクリエーション拠点として位置づけ、導入する機能等については多様化するレクリエーション需要への的確な対応に努める。

また、街区公園や近隣公園などの住区基幹公園については、最も身近で歩いて行ける屋外レクリエーション拠点として位置づけ、高齢者福祉の推進や子育て環境の充実などの社会的な要請に留意しつつ、市街地内における貴重な開放空間としての活用を図る。

さらに、これら都市公園は、公共公益施設や観光・レクリエーション施設なども含め、各種拠点を有機的に連携する歩行者系ネットワークの形成に努める。

②観光・レクリエーション資源

森林地域や農業地域内などに点在する観光・レクリエーション資源等は、地域に暮らす人々はもとより、域外より訪れる観光客も対象とした人と人、あるいは人と自然との交流拠点として位置づけ、都市特有の既存資源として活用を図る。

③里山地域と農業地域

市街地に近接する里山地域や農業地域は、農業等の場であると同時に、自然体験の場として位置づけ、自然環境等との調和・共存を図りつつ、交流機能やレクリエーション機能など、新たな多面的機能の導入により、景観的な荒廃を抑制しながら、地域特性を活かした積極的な活用を努める。

(3)防災系統

①市街地地域

市街地内については、大規模災害時における災害対策機能(一次避難地や広域避難場所等)にも十分留意しつつ、都市公園等の災害対策機能の強化を図る。

また、歩行者等に対する移動快適性の向上とともに、市街地内環境の向上や市街地における骨格的な開放空間としての風格ある景観の創出、さらに、大規模火災時などにおける延焼遮断機能なども考慮し、道路の緑化に努める。

②森林地域

がけ崩れ等、山岳地形の崩壊はもとより、降水時等における河川への負担を軽減する貯水機能をも確保するため、間伐等の手入れが遅れ荒廃のおそれがある森林も含め、よりまとまりある規模での樹林の保全に努める。

(4) 景観構成系統

① 山並み景観

雄大な景観を有する森林地帯は、本都市並びに上伊那圏域の骨格的な景観資源であることから、レクリエーション機能や防災機能なども勘案しながら、地域性豊かな自然景観の保全に努める。

② 田園等の景観

農業地域は、森林地域や里山地域とともに、古くより受け継がれてきた地域を象徴する景観であることから、観光・レクリエーション機能の導入などによる多機能化と調整を図りながら、郷土的景観の保全に努める。

③ 水辺の景観

河川については、多自然川づくりに配慮した改修事業などにより、親水性の確保と同時に、周辺環境・景観との調和に努める。

④ 街並み景観

市街地等については、緑化協定や景観育成住民協定などの締結を視野に入れつつ、都市公園や道路緑化なども活かしながら、周辺環境と調和したうるおいのある街並み景観の創出・維持に努める。

3) 実現のための具体の都市計画制度の方針

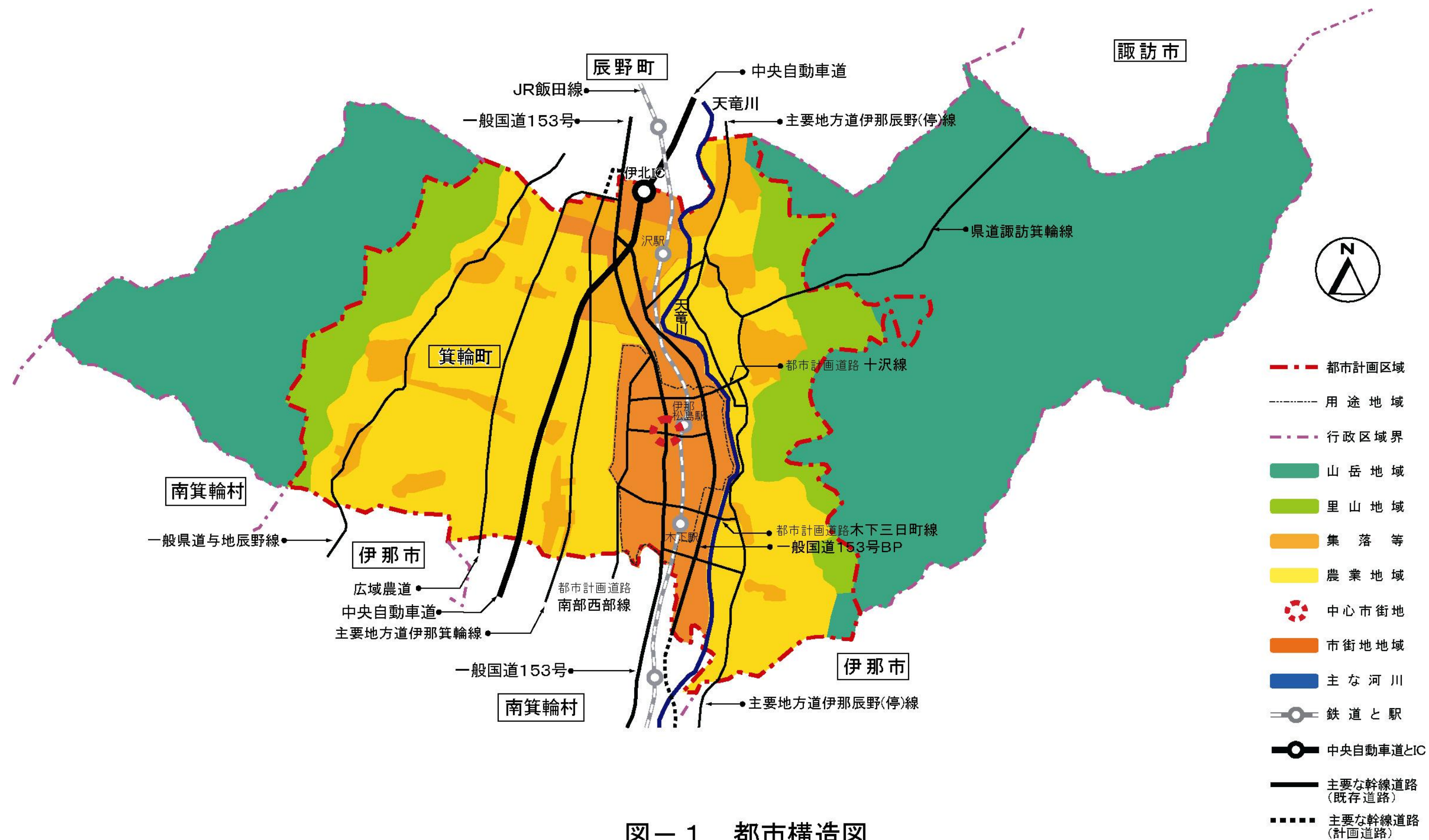
(1) 公園緑地等の整備目標及び配置方針

主要な公園については、都市計画施設として適正に配置し、整備を図る。

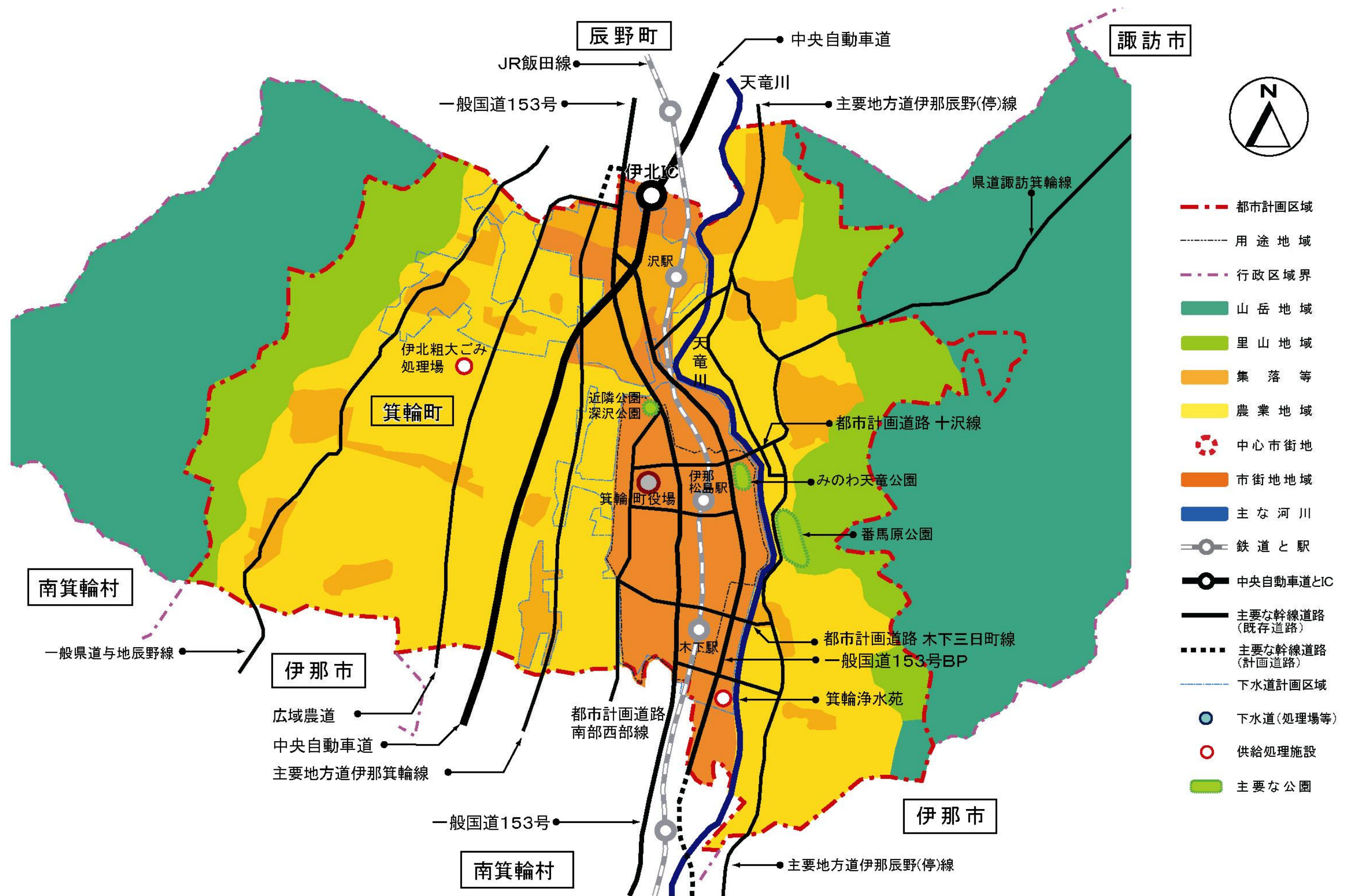
(2) 緑地保全地域等の指定目標及び指定方針

もみじ湖周辺及び、その上流域については、「箕輪町水源保護条例」に基づき、緑地の保全を図って行く。

また、市街地内や集落地内等における屋敷林、鎮守の森・境内林・段丘崖緑地などについては、風致地区などへの指定を検討する。



図一 1. 都市構造図



図一 2. 都市施設等配置図

箕輪都市計画（箕輪町）都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（案） 新旧対照表

目 次

1. 都市計画の目標	1
1－1. 都市計画区域の範囲と目標年次	1
1) 都市計画区域の範囲	1
2) 目標年次	1
1－2. 都市づくりの基本理念	1
1) 都市づくりの基本理念	1
1－3. 地域毎の市街地像	2
1) 地域毎の市街地像	2
2. 区域区分の決定の有無及び区域区分を定める際の方針	4
2－1. 区域区分の決定の有無	4
2－2. 区域区分の方針	5
1) おおむねの人口	5
3. 主要な都市計画の決定の方針	6
3－1. 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針	6
1) 主要用途の配置の方針	6
2) 土地利用の方針	6
3－2. 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針	9
1) 交通施設の都市計画の決定の方針	9
2) 下水道及び河川の都市計画の決定の方針	11
3－3. 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針	12
1) 基本方針	12
2) 主要な緑地の配置の方針	13
3) 実現のための具体の都市計画制度の方針	14
計画付図	
1. 都市構造図	15
2. 都市施設等配置図	16

平成 24 年 1 月

箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表	
旧（現行計画）	新（変更計画）
<p>箕輪都市計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の決定</p> <p><u>都市計画</u>都市計画区域の整備、開発及び保全の方針を次のように決定する。</p> <p>1. 都市計画の目標</p> <p>計画は、都市づくりに対する合意形成の促進を図るため、箕輪都市計画区域を対象として、県が広域的見地から、関係市町村や住民の意向を反映しながら、都市計画の目標とその実現に向けた基本的な方針を示すものである。</p>	<p>箕輪都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更</p> <p>都市計画区域の整備、開発及び保全の方針を次のように変更する。</p> <p>1. 都市計画の目標</p> <p>本計画は、都市づくりに対する合意形成の促進を図るため、箕輪都市計画区域を対象として、県が広域的見地から、関係市町村や住民の意向を反映しながら、都市計画の目標とその実現に向けた基本的な方針を示すものである。</p>
<p>－1. 都市計画区域の範囲と目標年次</p> <p>1)都市計画区域の範囲</p> <p>都市計画区域の名称：箕輪都市計画区域 該 当 市 町 村：上伊那郡箕輪町 範 囲：上伊那郡箕輪町の一部</p>	<p><u>1－1. 都市計画区域の範囲と目標年次</u></p> <p>1)都市計画区域の範囲</p> <p>都市計画区域の名称：箕輪都市計画区域 対 象 市 町 村：上伊那郡箕輪町 範 囲：上伊那郡箕輪町の一部</p>
<p>2)目標年次</p> <p>都市計画の基本的な方向：平成 <u>32</u> 年 都市施設などの整備目標：平成 <u>22</u> 年</p>	<p>2) 目標年次</p> <p>都市計画の基本的な方向：平成<u>42</u>年 都市施設などの整備目標：平成<u>32</u>年 <u>（中間年：平成27年）</u></p>
<p>－2. 都市づくりの基本理念</p> <p>1)都市づくりの基本理念</p> <p>箕輪都市計画区域は上伊那地方の北部に位置し、交通の便の良さを活かして一般国道153号バイパス沿線を中心として開発が進んでおり、自然環境<u>ゆたか</u>な田園景観と産業振興とが共存するという特徴を持った地域である。 <u>今後の都市づくりの基本理念は、</u> 「伊那谷らしさを未来へ」 ～自然・生活・産業が調和した広域連携による快適生活圏づくり～ とし、<u>その実現をめざす</u>骨子（施策の方針等）は次のとおりとする。</p>	<p><u>1－2. 都市づくりの基本理念</u></p> <p>1)都市づくりの基本理念</p> <p>箕輪都市計画区域は上伊那地方の北部に位置し、交通の便の良さを活かして一般国道153号バイパス沿線を中心として開発が進んでおり、自然環境<u>豊か</u>な田園景観と産業振興とが共存するという特徴を持った地域である。 上伊那圏域全体 <u>の基本理念は、</u> 「伊那谷らしさを未来へ」 ～自然・生活・産業が調和した広域連携による快適生活圏づくり～ <u>としつつ、本区域の将来像は、</u> <u>「人・地域が輝き 創造と活力あふれるまち 箕輪」</u> <u>～環境にやさしく、安心、安全、快適に暮らせるまちづくり～</u> <u>とする。</u> その実現をめざす骨子（施策の方針等）は次のとおりとする。</p>
<p>①うるおいと安らぎに満ちた環境共生都市づくり:自然に対する方針</p> <p>伊那谷の景観を代表する雄大な森林地帯と広大な田園地帯の保全とともに、市街地内の緑化の推進や集落内等の郷土色に満ちた家並みの形成など、地域性豊かな自然的利用地と暮らしの場との環境的・景観的な調和によるうるおいと安らぎに満ちた環境共生都市の創造をめざす。</p>	<p><u>(1) うるおいと安らぎに満ちた環境共生都市づくり:自然に対する方針</u></p> <p>伊那谷の景観を代表する雄大な森林地帯と広大な田園地帯の保全とともに、市街地内の緑化の推進や集落内等の郷土色に満ちた家並みの形成など、地域性豊かな自然的利用地と暮らしの場との環境的・景観的な調和による、<u>うるおいと安らぎに満ちた環境共生都市の創造をめざす。</u> <u>また、温室効果ガスの排出削減等を図り、持続可能な低炭素都市づくりをめざす。</u></p>

箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表

旧（現行計画）	新（変更計画）
<p>②ふれあいともてなしの心が支える快適生活都市づくり:生活に対する方針 ともに圏域特有の歴史・伝統や気候・風土に生まれ、培われてきた人と自然、あるいは人と人との出会い、ふれあいの場として、社会基盤施設整備の促進や<u>防災・防犯対策の充実</u>などによる社会的環境の改善、向上などに努め、誰もが安心していつまでも暮らし続けたいとなるようなふれあいの大切さやもてなしの心が支える快適生活都市の実現をめざす。</p>	<p>(2) ふれあいともてなしの心が支える快適生活都市づくり:生活に対する方針 圏域特有の歴史・伝統や気候・風土に生まれ、培われてきた人と自然、あるいは人と人との出会い、ふれあいの場として、社会基盤施設整備の促進や<u>箕輪町セーフコミュニティ推進事業</u>などによる社会的環境の改善、向上などに努め、誰もが安心していつまでも暮らし続けたいとなるような、ふれあいの大切さやもてなしの心が支える快適生活都市の実現をめざす。 <u>また、地震や風水害などの自然災害による被害を最小限に抑えるため、ハード・ソフト両面からの対応を進め、災害に強い都市の実現をめざす。</u> <u>併せて、すべての人が安全・快適で健やかな生活を営むことができるよう、徒歩、自転車利用の環境整備や公共交通機関等の利便性を高め、集約型都市構造の実現をめざす。</u></p>
<p>③魅力と活力があふれる持続的発展都市づくり:産業に対する方針 地域的な既存資源である自然的環境を活かした環境教育や体験学習などの新たな機能の導入・強化など、時代的な潮流に応じた農林業経営の多面化・多機能化を図るとともに、商業、工業、観光・レクリエーション産業などの各産業にふさわしい立地環境を整えながら、これら地域特性を活かした各種地場産業の機能連携の強化などにより都市全体としての魅力を拡大し、地域に関わる人々の活力にあふれた持続的発展都市の実現をめざす。</p>	<p>(3) 魅力と活力があふれる持続的発展都市づくり:産業に対する方針 地域的な既存資源である自然的環境を活かした環境教育や体験学習などの新たな機能の導入・強化など、時代的な潮流に応じた農林業経営の多面化・多機能化を図るとともに、商業、工業、観光・レクリエーション産業などの各産業にふさわしい立地環境を整えながら、これら地域特性を活かした各種地場産業の機能連携の強化などにより都市全体としての魅力を拡大し、地域に関わる人々の活力にあふれた持続的発展都市の実現をめざす。</p>
<p>④役割分担と機能連携で築いていく広域連携都市づくり 都市を構成する各市町村特有の歴史・伝統や気候・風土に応じた地域的な役割を十分尊重しつつ、これからも担うべき役割とともに、その機能的な連携の強化により、個性豊かな複数の市街地が連担する圏域特性を活かした広域連携都市の実現をめざす。</p>	<p>(4) 役割分担と機能連携で築いていく広域連携都市づくり 都市を構成する各市町村特有の歴史・伝統や気候・風土に応じた地域的な役割を十分尊重しつつ、これからも担うべき役割とともに、その機能的な連携の強化により、個性豊かな複数の市街地が連担する圏域特性を活かした広域連携都市の実現をめざす。</p>
<p>－3. 地域毎の市街地像 1)地域毎の市街地像 (1)山岳地域 山岳地域については、<u>将来的にも森林法や県立自然公園条例を遵守し、</u>まとまりある規模の山林が持つ重要かつ多様な機能の継承をめざし、自然環境の保全に努めると同時に、広域的な観点からみた圏域の魅力の向上をめざしレクリエーション的な有効活用の促進に努める。</p>	<p>1－3. 地域毎の市街地像 1)地域毎の市街地像 (1)山岳地域 山岳地域については、まとまりある規模の山林が持つ重要かつ多様な機能の継承をめざし、自然環境の保全に努めると同時に、広域的な観点からみた圏域の魅力の向上をめざし、<u>レクリエーション的な有効活用の促進に努める。</u></p>
<p>(2)里山地域 人々の身近な緑地である里山地域については、地域的な文化や風土に培われた伝統的な里山景観の保全に努めると同時に、<u>林業の場でもあり、</u>日常的な暮らしに溶け込んだ自然環境との共生の場として学習機能やレクリエーション機能の導入、あるいはその受け入れ体制の拡充などにより多目的型森林への移行・育成に努める。</p>	<p>(2)里山地域 人々の身近な緑地である里山地域については、地域的な文化や風土に培われた伝統的な里山景観の保全に努めると同時に、日常的な暮らしに溶け込んだ自然環境との共生の場として、<u>学習機能やレクリエーション機能の導入、あるいは、</u>その受け入れ体制の拡充などにより、<u>多目的型森林への移行・育成に努める。</u></p>
<p>(3)集落等 既存集落等については、周辺農地と一体となり形成されてきた風土的な集落景観を保全すると同時に、周辺農地と調和を図りつつ、市街地内とは異なる多自然型の環境に位置する住宅地であることに留意しながらその生活環境の拡充・向上に努める。</p>	<p>(3)集落等 既存集落等については、周辺農地と一体となり形成されてきた風土的な集落景観を保全すると同時に、周辺農地と調和を図りつつ、市街地内とは異なる多自然型の環境に位置する住宅地であることに留意しながら、その生活環境の拡充・向上に努める。</p>

箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表

旧（現行計画）	新（変更計画）
<p>(4)農業地域</p> <p>農業地域については、集落等と一体的に風土的な景観の保全に努めると同時に、農業経営の活性化や農業基盤を活かした遊休農地の有効活用もめざす。また人々の価値観やレクリエーション需要の多様化などの社会的要請に、より柔軟に対応すべく、環境学習や農業体験、農業に関わる観光・レクリエーション機能の導入、あるいは機能強化などによる多面的農業の推進に努める。</p>	<p>(4)農業地域</p> <p>農業地域については、集落等と一体的に形成されてきた風土的な景観の保全に努めるとともに、<u>「長野県農業振興地域整備基本方針」に基づき、農業生産を担う基盤としての農用地の保全を図る。</u></p>
<p>(5)中心市街地</p> <p>中心市街地等については、各地特有の個性や特徴を活かしながら郊外型の大規模施設等との差別化、棲み分けを明らかにすることにより賑わいと魅力ある商店街づくりに努めると同時に、高齢社会の進行<u>他</u>、将来的な社会経済情勢を見据えた街中での安全性・快適性の向上を図り、従来から担ってきた都市の中心部としての役割である地域に暮らす人と人、あるいは域外から訪れる人との出会い・ふれあい・交流機能などの強化・促進に努める。</p>	<p>(5)中心市街地</p> <p>中心市街地等については、各地特有の個性や特徴を活かしながら郊外型の大規模施設等との棲み分けを明らかにすることにより、<u>賑わい</u>と魅力ある商店街づくりに努めると同時に、高齢社会の進行<u>など</u>将来的な社会経済情勢を見据えた街中での安全性・快適性の向上を図り、従来から担ってきた都市の中心部としての役割である地域に暮らす人と人、あるいは域外から訪れる人との出会い・ふれあい・交流機能などの強化・促進に努める。</p>
<p>(6)市街地地域</p> <p>市街地地域については、住居系用途と産業系用途の区分など、それぞれの利用形態や立地環境にふさわしい土地利用や建物用途の適正化・純化とともに、市街地内全体に対する周辺環境と調和した景観形成に努め、さらに、市街地としての魅力を高める社会基盤施設の整備を促進し、より良い生活・産業環境の改善に努める。</p>	<p>(6)市街地地域</p> <p>市街地地域については、住居系用途と産業系用途の区分など、それぞれの利用形態や立地環境にふさわしい土地利用や建物用途の適正化・純化とともに、市街地内全体に対する周辺環境と調和した景観形成に努め、さらに、市街地としての魅力を高める社会基盤施設の整備を促進し、より良い生活・産業環境の改善に努める。</p>

箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表

旧（現行計画）	新（変更計画）
<div>2. 区域区分の決定の有無及び区域区分を定める際の方針</div> <div>2-1. 区域区分の決定の有無</div> <div>本都市計画に区域区分を定めない。</div> <div>なお、区域区分を定めないとした根拠は、次のとおりである。</div> <div>① 県による同一基準での判断結果</div> <div>県では、人口の動向、土地利用の状況等に着目し、県下同一基準に基づいて、本区域における区域区分の必要性をやや高いと判断した。その概要は以下のとおりである。</div> <div><div>・市街地（用途地域）内の人口増加数よりも、市街地外の人口増加数の方が多い。</div><div>・市街地外での農地転用状況をみると長野県の平均よりも小さいことから、市街地外への宅地化の拡散の傾向が見られない。</div><div>・人口は伸びており、2・3次産業従業者数の伸び率も高い。</div><div>・市街地内の道路面積率は住宅地における標準的な目安より小さく、市街地内都市的土地利用率は県平均より低く、計画的な市街地整備の必要性がある。</div></div> <div>② 地域特性を考慮した区域区分の検討</div> <div>本区域の市街地外のうち、まとまりのある優良農地・森林等は農業振興地域の整備に関する法律に定められた農用地区域、森林法に定められた地域森林計画対象森林、保安林等他法令によって指定されている。また、用途地域を市街地整備の中心として位置づけ、箕輪町で制定されている「箕輪町環境保全条例」により規制・誘導することで土地利用の区分を明確にし、計画的な土地利用を推進しており、今後もこのような方策を継続し、周辺環境と調和したまちづくりを進めるため、急激かつ無秩序な市街化は進展しないものと考えられる。</div> <div>③ 区域区分以外の各種都市計画手法の適用を前提として「区域区分」は行わない</div> <div>本区域は、①では区域区分の必要性はやや高いと判断されたが、②に示す地域特性を踏まえ、急激な人口増加や市街化は考えにくい。よって、区域区分以外の都市計画手法による土地利用の規制・誘導を進め、必要な都市基盤の整備・充実を図るとともに、周囲の環境と調和した計画的な土地利用を図る。</div> <div>このような本区域の状況と考え方を踏まえて、以下のような方針とする。</div> <div>本区域は、今後、他の法令との適切な連携のもとで、各種都市計画手法、建築基準法に基づく制度の活用等により、計画的な土地利用の実現を前提として、区域区分は定めない。</div> <div>(参考)</div> <div>「区域区分」とは</div> <div>「区域区分」とは、無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため、都市計画区域を、優先的、計画的に市街化を図る「市街化区域」と市街化を抑制する「市街化調整区域」とに区分することで、一般に「線引き」といわれている。</div> <div>「区域区分」を「する」か「しない」かは、県で判断</div> <div>平成12年5月の改正以前の都市計画法では、「線引き」をするか、しないかは国が法律によって定め、当分の間、一定の条件を満たす都市計画区域を対象として、限定的に実施されてきた。しかし、高度成長期の「都市化社会」から安定・成熟した「都市型社会」への移行など、近年の社会経済情勢の大きな変化を踏まえ、平成12年5月の都市計画法の改正により、「区域区分」については、広域的観点から県が、地域の状況に応じて区域毎に判断することとなった。</div>	<div>2. 区域区分の決定の有無及び区域区分を定める際の方針</div> <div>2-1. 区域区分の決定の有無</div> <div>本都市計画に区域区分を定めない。</div> <div>なお、区域区分を定めないとした根拠は次のとおりである。</div> <div>① 県による同一基準での判断結果</div> <div>県では、人口の動向、土地利用の状況等に着目し、県下同一基準に基づいて、本区域における区域区分の必要性をやや高いと判断した。その概要は以下のとおりである。</div> <div><div>・市街地（用途地域）内の人口増加数よりも市街地外の人口増加数の方が多い。</div><div>・市街地外での農地転用状況をみると長野県の平均よりも小さいことから、市街地外への宅地化の拡散の傾向が見られない。</div><div>・人口は伸びており、2・3次産業従業者数の伸び率も高い。</div><div>・市街地内の道路面積率は住宅地における標準的な目安より小さく、市街地内都市的土地利用率は県平均より低く、計画的な市街地整備の必要性がある。</div></div> <div>② 地域特性を考慮した区域区分の検討</div> <div>本区域の市街地外のうち、まとまりのある優良農地・森林等は農業振興地域の整備に関する法律に定められた農用地区域、森林法に定められた地域森林計画対象森林、保安林等他法令によって指定されている。</div> <div>また、用途地域を市街地整備の中心として位置づけ、箕輪町が制定した「箕輪町環境保全条例」により規制・誘導することで土地利用の区分を明確にしつつ、計画的な土地利用を推進しており、今後もこの方策を継続し、周辺環境と調和したまちづくりを進めるため、急激かつ無秩序な市街化は進展しないものと考えられる。</div> <div>③ 区域区分以外の各種都市計画手法の適用を前提として「区域区分」は行わない</div> <div>本区域は、①では区域区分の必要性はやや高いと判断されたが、②に示す地域特性を踏まえ、急激な人口増加や市街化は考えにくい。よって、区域区分以外の都市計画手法による土地利用の規制・誘導を進め、必要な都市基盤の整備・充実を図るとともに、周囲の環境と調和した計画的な土地利用を図る。</div> <div>このような本区域の状況と考え方を踏まえて、以下のような方針とする。</div> <div>本区域は、今後、他の法令との適切な連携のもとで区域区分以外の都市計画手法、建築基準法に基づく制度の活用等により、計画的な土地利用の実現が可能と判断し、区域区分を定めない。</div> <div>(参考)</div> <div>「区域区分」とは</div> <div>「区域区分」とは、無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため、都市計画区域を、優先的、計画的に市街化を図る「市街化区域」と市街化を抑制する「市街化調整区域」とに区分することで、一般に「線引き」と言われている。</div> <div>「区域区分」を「する」か「しない」かは、県が判断</div> <div>平成12年5月の改正以前の都市計画法では、「区域区分」を「する」か「しない」かは、国が法律によって定め、当分の間、一定の条件を満たす都市計画区域を対象として、限定的に実施されてきた。しかし、高度成長期の「都市化社会」から安定・成熟した「都市型社会」への移行など、近年の社会経済情勢の大きな変化を踏まえ、平成12年5月の都市計画法の改正により、「区域区分」については、広域的観点から県が、地域の状況に応じて区域毎に判断することとなった。</div>

箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表

旧（現行計画）		新（変更計画）																										
<div>2. 区域区分の方針</div> <div>前項で記述のとおり本区域では区域区分は行わないため、本項目に対する記述は要しないが、本区域の基本理念に基づき、計画的なまちづくり実現に向け、今後の人口、産業規模について以下のとおり参考標記する。</div> <div>1)おおむねの人口</div> <div>本都市の将来におけるおおむねの人口を、次のとおり想定する。</div> <div>表－1. おおむねの将来人口</div> <table><tr><th>年次</th><th>平成12年 （基準年）</th><th>平成22年 （基準年の10年後）</th></tr><tr><th>区分</th><td></td><td></td></tr><tr><td>都市計画区域内人口</td><td>25.7千人</td><td>おおむね 28.3千人</td></tr></table> <div>平成12年欄は平成12年国勢調査による実績値を、平成22年欄はコーホート変化率法による推計値であり、社会増加分は加味しない。</div>		年次	平成12年 （基準年）	平成22年 （基準年の10年後）	区分			都市計画区域内人口	25.7千人	おおむね 28.3千人	<div>2-2. 区域区分の方針</div> <div>前項で記述のとおり本区域では区域区分は行わないため、本項目に対する記述は要しないが、本区域の基本理念に基づき、計画的なまちづくり実現に向け、今後の人口について以下のとおり参考表記する。</div> <div>1) おおむねの人口</div> <div>本区域の将来におけるおおむねの人口を、次のとおり想定する。</div> <div>表－1. おおむねの将来人口</div> <table><tr><th>年次</th><th>平成17年 （基準年）</th><th>平成27年 （中間年）</th><th>平成32年 （目標年）</th></tr><tr><th>区分</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>都市計画区域内人口</td><td>26.3千人</td><td>おおむね 26.4千人</td><td>おおむね 26.1千人</td></tr></table> <div>(注) 平成17年基準年人口は「国勢調査」及び「都市計画基礎調査」による統計値。 平成27・32年欄の都市計画区域内人口は、国立社会保障・人口問題研究所によるコーホート要因法により算出した行政区画人口から、回帰式による都市計画区域外人口を除して算定。</div>		年次	平成17年 （基準年）	平成27年 （中間年）	平成32年 （目標年）	区分				都市計画区域内人口	26.3千人	おおむね 26.4千人	おおむね 26.1千人				
年次	平成12年 （基準年）	平成22年 （基準年の10年後）																										
区分																												
都市計画区域内人口	25.7千人	おおむね 28.3千人																										
年次	平成17年 （基準年）	平成27年 （中間年）	平成32年 （目標年）																									
区分																												
都市計画区域内人口	26.3千人	おおむね 26.4千人	おおむね 26.1千人																									
<div>2)産業の規模</div> <div>本都市の将来における産業の規模を、次のとおり想定する。</div> <div>表－2. 産業の規模</div> <table><tr><th colspan="2">年次</th><th>平成12年 （基準年）</th><th>平成22年</th></tr><tr><th colspan="2">区分</th><td colspan="2">商業販売額については平成11年</td></tr><tr><td rowspan="2">生産規模</td><td>工業出荷額</td><td>2,067.9億円</td><td>2,709.5億円</td></tr><tr><td>商業販売額</td><td>403.0億円</td><td>607.3億円</td></tr><tr><td rowspan="3">就業構造</td><td>第一次産業</td><td>1.3千人（9.0%）</td><td>1.1千人(6.6%)</td></tr><tr><td>第二次産業</td><td>8.2千人（56.0%）</td><td>9.2千人(55.5%)</td></tr><tr><td>第三次産業</td><td>5.1千人（35.0%）</td><td>6.3千人(37.9%)</td></tr></table> <div>*生産規模の平成12年欄は実績値を、平成22年欄はこの実績値を基礎値としてデフレータ率で修正した値を示す。</div>		年次		平成12年 （基準年）	平成22年	区分		商業販売額については平成11年		生産規模	工業出荷額	2,067.9億円	2,709.5億円	商業販売額	403.0億円	607.3億円	就業構造	第一次産業	1.3千人（9.0%）	1.1千人(6.6%)	第二次産業	8.2千人（56.0%）	9.2千人(55.5%)	第三次産業	5.1千人（35.0%）	6.3千人(37.9%)		
年次		平成12年 （基準年）	平成22年																									
区分		商業販売額については平成11年																										
生産規模	工業出荷額	2,067.9億円	2,709.5億円																									
	商業販売額	403.0億円	607.3億円																									
就業構造	第一次産業	1.3千人（9.0%）	1.1千人(6.6%)																									
	第二次産業	8.2千人（56.0%）	9.2千人(55.5%)																									
	第三次産業	5.1千人（35.0%）	6.3千人(37.9%)																									

箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表

旧（現行計画）	新（変更計画）
<p>3. 主要な都市計画の決定の方針</p> <p>－1. 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針</p> <p>1)主要用途の配置の方針</p> <p>(1)住宅地</p> <p>一般国道 153 号に沿って形成されている既成の住宅市街地については、生活道路や都市公園などの社会基盤施設の整備を進めつつ、良好な居住環境が備わった自然環境と共生する低層住宅地の形成を図る。</p> <p><u>J R 飯田線伊那松島駅西側の中心市街地の周辺部については、都市型居住に対応した集合住宅等の立地誘導を図る。</u></p> <p>今後も増加が見込まれる新たな住宅需要については、既成市街地北端部から J R 飯田線沢駅周辺までの地域の計画的な市街化により対応を図る。</p> <p>田園地帯に点在する既存集落についても、農業関連施策等との調整を図りつつ、居住環境の改善・向上に努め、新たな住宅需要への対応を図る。</p>	<p>3. 主要な都市計画の決定の方針</p> <p>3－1. 土地利用に関する主要な都市計画の決定の方針</p> <p>1)主要用途の配置の方針</p> <p>(1)住宅地</p> <p>一般国道 153 号に沿って形成されている既成の住宅市街地については、生活道路や都市公園などの社会基盤施設の整備を進めつつ、良好な居住環境が備わった自然環境と共生する低層住宅地の形成を図る。</p> <p>今後も増加が見込まれる新たな住宅需要については、既成市街地北端部から J R 飯田線沢駅周辺までの地域の計画的な市街化により対応を図る。</p> <p>田園地帯に点在する既存集落についても、農業関連施策等との調整を図りつつ、居住環境の改善・向上に努め、新たな住宅需要への対応を図る。</p>
<p>(2)商業地</p> <p>J R 飯田線伊那松島駅周辺の商業地については、本都市の中心地区として商業・業務系施設や文化施設等の都市機能施設の集積を図り、都市内交流拠点としての機能強化に努める。</p> <p>J R 飯田線木下駅周辺については、立地特性に応じた近隣商業施設の集積を図る。</p> <p>一般国道 153 号バイパス沿いの沿道型商業施設の集積地については、多大な自動車交通量に配慮した広域幹線道路沿道部<u>とともに</u>、上伊那圏域における都市型産業の中心部にふさわしい風格ある沿道環境・景観の創出に努める。</p>	<p>(2)商業地</p> <p>J R 飯田線伊那松島駅周辺の商業地については、本都市の中心地区として商業・業務系施設や文化施設等の都市機能施設の集積を図り、都市内交流拠点としての機能強化に努める。</p> <p>J R 飯田線木下駅周辺については、立地特性に応じた近隣商業施設の集積を図る。</p> <p>一般国道 153 号バイパス沿いの沿道型商業施設の集積地については、多大な自動車交通量に配慮した広域幹線道路沿道部<u>にあり</u>、上伊那圏域における都市型産業の中心部にふさわしい風格ある沿道環境・景観の創出に努める。</p>
<p>(3)工業地</p> <p>工業団地などの既存の工業集積地については、周辺環境との調和に努めるとともに、市街地や交通拠点施設等との連絡機能の強化など、生産基盤の拡充を図る。</p> <p>新たな工業用地の需要については、周辺土地利用との調整を図りつつ、既存の工業団地の拡大とともに、良好な広域交通利便性を有している中央自動車道伊北インターチェンジ周辺や一般国道 153 号バイパス沿道部などについて計画的な土地利用転換を図る。</p>	<p>(3)工業地</p> <p>工業団地などの既存の工業集積地については、周辺環境との調和に努めるとともに、市街地や交通拠点施設等との連絡機能の強化など、生産基盤の拡充を図る。</p> <p>新たな工業用地の需要については、周辺土地利用との調整を図りつつ、既存の工業団地の拡大とともに、良好な広域交通利便性を有している中央自動車道伊北インターチェンジ周辺や一般国道 153 号バイパス沿道部などについて計画的な土地利用転換を図る。</p>
<p>2)土地利用の方針</p> <p>(1)土地の高度利用に関する方針</p> <p>① 中心市街地の活性化</p> <p>中心市街地等は、きめ細かなまちづくりを計画的に推進することが容易となる<u>地区計画制度の導入などにより</u>、歩行者系移動環境の改善や空店舗等のふれあい・交流施設、あるいは共同駐車場等への転用<u>他</u>、既存資源を利用した社会基盤施設の拡充に努める。</p> <p>また、これと同時に、「<u>中心市街地における市街地の整備改善及び商業等の活性化の一体的推進に関する法律</u>」に基づく中小小売商業高度化事業やTMO（非行政機関のまちづくり運営・管理機関等）などの導入などをも視野に入れながらハード・ソフト両面からの総合的・計画的な施策の展開により、地域特性とともに高齢社会にふさわしい安全性・快適性・利便性を備えた人々の交流拠点としての魅力を高めその活性化に努める。</p> <p>さらに、<u>このような都市的機能の強化と同時に</u>、商業地域等としての良好な生活利便性とともに、<u>一般住宅地等に比べ高い値で設定されている容積率・建ぺい率を活かし</u>、高齢者や若年者世帯向け住宅などの集合住宅等の立地誘導を図り、定住人口の増加対策に<u>も</u>努める。</p>	<p>2)土地利用の方針</p> <p>(1)土地の高度利用に関する方針</p> <p>①中心市街地の活性化</p> <p>中心市街地は、きめ細かなまちづくりを計画的に推進する<u>ため</u>、地区計画制度<u>等の活用を図り</u>、歩行者系移動環境の改善、<u>空店舗等のふれあい・交流施設、あるいは共同駐車場等への転用など</u>既存資源を利用した社会基盤施設の拡充<u>を図る</u>。</p> <p>また、これと同時に、「<u>市街地総合再生計画</u>」を<u>策定するなど</u>、ハード・ソフト両面からの総合的・計画的な施策の展開により、地域特性とともに高齢社会にふさわしい安全性・快適性・利便性を備えた人々の交流拠点としての魅力を高め、その活性化に努める。</p> <p>さらに、都市的機能の強化と同時に、商業地域等としての良好な生活利便性を活かし、高齢者や若年者世帯向け住宅などの集合住宅等の立地誘導を図り、定住人口の増加対策に努める。</p>

箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表

旧（現行計画）	新（変更計画）
<p>② 幹線道路沿道の環境整備</p> <p>大型の商業・サービス施設や業務施設などの集積が進む幹線道路等沿道部については、地区計画等、建物用途の規制が可能な都市計画制度の導入など、地域社会にふさわしい施設の立地誘導策を確立し、農業関連施策等との調整を図りつつ、良好な市街地環境の形成に努める。</p>	<p>②幹線道路沿道の環境整備</p> <p>大型の商業・サービス施設や業務施設などの集積が進む幹線道路等沿道部については、地区計画等、建物用途の規制が可能な都市計画制度の導入など、地域社会にふさわしい施設の立地誘導策を確立し、農業関連施策等との調整を図りつつ、良好な市街地環境の形成に努める。</p>
<p>③ 都市基盤施設の拡充</p> <p>高齢社会の進行を見据えた居住者等の生活利便性や快適性の向上及び大規模災害時における地域的対策の充実、さらに、産業関連交通の安全かつ円滑な処理や就業環境の向上など、生活・産業環境の向上を図るため、面的な市街地環境の改善・向上が期待し得る土地区画整理事業や地区計画の設定などの都市計画制度を活かしながら幹線道路等を補完する道路体系や都市公園などの各種都市基盤施設の整備を推進する。</p>	<p>③都市基盤施設の拡充</p> <p>高齢社会の進行を見据えた居住者等の生活利便性や快適性の向上及び大規模災害時における地域的対策の充実、さらに、産業関連交通の安全かつ円滑な処理や就業環境の向上など、生活・産業環境の向上を図るため、面的な市街地環境の改善・向上が期待し得る土地区画整理事業や地区計画の設定などの都市計画制度を活かしながら、幹線道路等を補完する道路体系や都市公園などの各種都市基盤施設の整備を推進する。</p>
<p>(2) 居住環境の改善又は維持に関する方針</p> <p>既存集落等は、<u>河岸段丘の斜面林</u>などをも含め、広域的に共通する環境・景観保全条例等の制定なども視野に入れながらその保全に努める。</p> <p>また、農林業関連施策等との調整を図りつつ、住宅需要の多様化やグリーンツーリズムへの対応などにも配慮しながら良好な居住・生活環境の維持・創出をめざし、開発許可制度の他、地域特性に応じたきめ細かな集落づくりをめざす集落地区計画制度や集落にふさわしい建築物に規制・誘導する特定用途制限地域制度、建築形態規制（容積率や建ぺい率制限）の強化・見直しなど、集落特性に応じた都市計画制度等の導入などにより生活環境の改善・向上に努める。</p>	<p>(2)居住環境の改善又は維持に関する方針</p> <p>既存集落等は、<u>段丘崖緑地</u>などをも含め、広域的に共通する環境・景観保全条例等の制定なども視野に入れながら、<u>その保全に努める。</u></p> <p>また、農林業関連施策等との調整を図りつつ、住宅需要の多様化やグリーンツーリズムへの対応などにも配慮しながら、良好な居住・生活環境の維持・創出をめざし、開発許可制度の他、地域特性に応じたきめ細かな集落づくりをめざす集落地区計画制度や集落にふさわしい建築物に規制・誘導する特定用途制限地域制度、建築形態規制（容積率や建ぺい率制限）の強化・見直しなど、集落特性に応じた都市計画制度等の導入などにより生活環境の改善・向上に努める。</p>
<p>(3) 優良な農地との健全な調和に関する方針</p> <p>農業地域は、「<u>農業振興地域の整備に関する法律</u>」に基づく土地利用規制を主体としつつ、開発許可制度の他、特定用途制限地域制度、建築形態規制（容積率制限や建ぺい率制限）の見直しなど、都市計画制度の導入をも含め、無秩序な市街化・宅地化の進行を抑制しつつ、広域的に共通する環境・景観保全条例等の制定なども視野に入れながらまとまりある規模での保全に努める。</p> <p><u>さらに、耕作放棄地や遊休農地等については、「農業振興地域の整備に関する法律」に即しつつ、その他地場産業や既存のながた自然公園や赤そばの里、信州伊那梅苑などとの機能連携などにも配慮しながら周辺環境と調和した農業体験や環境学習等を目的とする観光・レクリエーション施設への機能転換など、多面的農業に資する有効活用に努める。</u></p>	<p>(3)優良な農地との健全な調和に関する方針</p> <p>農業地域は、「<u>長野県農業振興地域整備基本方針</u>」に基づき、<u>今後とも優良な農地として保全する。また、</u>開発許可制度、特定用途制限地域制度、建築形態規制（容積率制限や建ぺい率制限）の見直しなど、都市計画制度の導入を含め、無秩序な市街化・宅地化の進行を抑制しつつ、広域的に共通する環境・景観保全条例等の制定なども視野に入れながら、<u>まとまりある規模での保全に努める。</u></p> <p>耕作放棄地については、<u>耕作放棄地解消計画に基づき解消に向けた取組を推進するとともに、都市と農村の交流の場としての利用を図るなど、多様な活用方策を推進し、</u>有効活用に努める。</p>
<p>(4) 災害防止の観点から必要な市街地の抑制に関する方針</p> <p>急傾斜地の崩壊、土石流、地滑りの土砂災害の<u>恐れ</u>のある地域において、住民の生命及び身体を保護するため、建築物の立地抑制等を図る区域を「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等として指定を行うことを推進する。</p>	<p>(4)災害防止の観点から必要な市街地の抑制に関する方針</p> <p>急傾斜地の崩壊、土石流、地<u>すべり</u>の土砂災害の<u>おそれ</u>のある地域については、住民の生命及び身体を保護するため、建築物の立地抑制等を図る区域を「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく土砂災害特別警戒区域等<u>に指定することにより、適切な土地利用を図る。</u></p>

箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表

旧（現行計画）	新（変更計画）
<p>(5) 自然環境形成の観点から必要な保全に関する方針</p> <p>① 山岳地域</p> <p>山岳地域の大半を占めている森林は、森林法、<u>自然公園法</u>や箕輪町水源保護条例などに基づきながら樹木の健全な育成を図る。広域的に共通する環境・景観保全条例等の制定なども視野に入れながら、まとまりある規模での保全に努める。</p> <p>また、水と緑による美しい景観をなす沢川沿いから箕輪ダム・もみじ湖周辺にかけての地域や広く伊那谷を見渡せる萱野高原などの既存の観光・レクリエーション資源等については、人と自然、人と人とが出会い、ふれあう緑の交流拠点あるいは環境学習等の場としての機能強化を図る。</p>	<p>(5)自然環境形成の観点から必要な保全に関する方針</p> <p>①山岳地域</p> <p>山岳地域の大半を占めている森林は、森林法や箕輪町水源保護条例などに基づきながら樹木の健全な育成を<u>図り</u>、広域的に共通する環境・景観保全条例等の制定なども視野に入れながら、まとまりある規模での<u>自然環境</u>保全に努める。</p> <p>また、水と緑による美しい景観をなす沢川沿いから箕輪ダム・もみじ湖周辺にかけての地域や広く伊那谷を見渡せる萱野高原などの既存の観光・レクリエーション資源等については、<u>生物多様性の保全に留意しながら</u>、人と自然、人と人とが出会い、ふれあう緑の交流拠点あるいは、環境学習等の場としての機能強化や<u>多面的活用</u>を図る。</p>
<p>② 里山地域</p> <p>里山地域は、森林法に基づく林地開発許可制度の運用の他、緑地保全<u>地区</u>の指定等、都市計画制度などにより、幹線道路等沿道を中心とする無秩序な施設立地や森林の開発を抑制しつつ、広域的に共通する環境・景観保全条例等の制定なども視野に入れながら環境及び景観の保全に努める。</p> <p>また、ながた自然公園やみのわ温泉、赤そばの里などの既存施設に、天竜川をはじめ深沢川、帯無川などの河川空間を取り込んだ水と緑のネットワークの形成や公共交通サービスの機能強化などをにらみつつ、その立地特性を活かした保健文化機能の強化や、農業その他の地場産業との機能連携を<u>目指す</u>。更にそれを踏まえて、森林体験や環境学習の場、グリーンツーリズムの場などとして、自然と人が共生する多目的・多機能型森林地帯の形成を図る。</p>	<p>②里山地域</p> <p>里山地域は、森林法に基づく林地開発許可制度の運用の他、緑地保全<u>地域</u>の指定等、都市計画制度の<u>導入</u>などにより、幹線道路等沿道を中心とする無秩序な施設立地や森林の開発を抑制しつつ、広域的に共通する環境・景観保全条例等の制定なども視野に入れながら環境及び景観の保全に努める。</p> <p>また、ながた自然公園やみのわ温泉、赤そばの里などの既存施設に、天竜川をはじめ深沢川、帯無川などの河川空間を取り込んだ水と緑のネットワークの形成や公共交通サービスの機能強化などをにらみつつ、その立地特性を活かした保健文化機能の強化や、農業その他の地場産業との機能連携を<u>めざす</u>。</p> <p><u>さらに</u>、それを踏まえて、森林体験や環境学習の場、グリーンツーリズムの場、<u>生物多様性の保全・再生の場</u>などとして、自然と人が共生する多目的・多機能型森林地帯の形成を図る。</p>
<p>(6) 計画的な都市的土地利用の実現に関する方針</p> <p>一般国道 153 号バイパス沿道部や中央自動車道伊北インターチェンジ周辺部など、交通利便性に優れ都市的利用地へ移行<u>していく可能性が高い地域</u>、もしくは進行しつつある地域などについては、「農業振興地域の整備に関する法律」や既に実施されている農業関連施策などとの調整を図りつつ、土地利用はもとより景観性や風紀の面などからもみた地域にふさわしい良好な都市環境の維持・向上をめざし、用途地域の決定や地区計画や開発許可制度規制内容の強化を含むまちづくり条例等の制定など、立地特性に応じた都市計画制度等の導入による総合的かつ計画的な土地利用転換に努める。</p> <p>用途地域外の白地地域建築形態規制については、基本的に農業等との健全な調和を図りながら適切に規制・誘導する。おもに、辰野町と南箕輪村間の一般国道 153 号バイパス沿いの伊北<u>I C</u>付近や南箕輪村付近については商工業用地として見合った容積率・建ぺい率とし、さらに里山地域・既存集落地域はそれに見合った容積率・建ぺい率とする。</p>	<p>(6)計画的な都市的土地利用の実現に関する方針</p> <p>一般国道 153 号バイパス沿道部や中央自動車道伊北インターチェンジ周辺部など、交通利便性に優れ都市的利用地へ移行<u>しつつある地域又はその可能性が高い地域</u>などについては、「農業振興地域の整備に関する法律」や既に実施されている農業関連施策などとの調整を図りつつ、土地利用はもとより景観性や風紀の面などからもみた地域にふさわしい良好な都市環境の維持・向上をめざ<u>す</u>。</p> <p><u>このため</u>、地区計画や<u>特定用途制限地域の指定、用途地域の見直し</u>など、立地特性に応じた都市計画制度等の導入による総合的かつ計画的な土地利用転換に努める。</p> <p>用途地域外の白地地域建築形態規制については、基本的に農業等との健全な調和を図りながら適切に規制・誘導する。おもに、辰野町と南箕輪村間の一般国道 153 号バイパス沿いの伊北<u>インターチェンジ</u>付近や南箕輪村付近については、商工業用地として見合った容積率・建ぺい率・<u>斜線制限</u>とし、さらに里山地域・既存集落地域はそれに見合った容積率・建ぺい率・<u>斜線制限</u>とする。</p>

箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表

旧（現行計画）	新（変更計画）
<p><u>－2. 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針</u></p> <p>1)交通施設の都市計画の決定の方針</p> <p>(1)基本方針</p> <p><u>i. 交通体系の整備の方針</u></p> <p>当地域の主要な交通手段は自動車であり、既存道路の改良と共に広域的な連絡強化が求められる。</p> <p>当地域では中央自動車道が広域連携軸としての役割を担っており、それを踏まえ、地域の南北軸を形成する一般国道 153 号及び同バイパスをはじめ、主要地方道伊那箕輪線、<u>同じく伊那辰野（停）線、一般県道与地辰野線、町道 1 号線（広域農道）の機能強化に努める。</u></p> <p>また、伊北インターチェンジや駅前広場などの交通結節点及び地域の中心部や主要な広域的施設、観光・レクリエーション施設、さらには広域避難地などを有機的に連携する都市内交通体系の拡充（特に、<u>南北交通軸を連絡する東西連携機能である、都市計画道路南部西部線を西に延伸して主要地方道伊那箕輪線へ結ぶとともに、町道 4 号線を南へ延伸して広域施設等との連携）を図る。</u></p> <p>また、<u>これら広域幹線的な道路機能を補完しながら</u>生活や産業を支える既成市街地内等の都市計画道路については、整備の促進に努める。</p> <p>なお、J R 飯田線各駅の駅前広場等については、交通結節点である同時に、人と人との交流拠点としても捉える。</p>	<p><u>3－2. 都市施設の整備に関する主要な都市計画の決定の方針</u></p> <p>1)交通施設の都市計画の決定の方針</p> <p>(1) 基本方針</p> <p><u>①交通体系の整備の方針</u></p> <p>当地域の主要な交通手段は自動車であり、既存道路の改良と<u>ともに</u>広域的な連絡強化が求められる。</p> <p>当地域では、中央自動車道が広域連携軸としての役割を担っており、それを踏まえ、地域の南北軸を形成する一般国道 153 号及び同バイパスをはじめ、主要地方道伊那箕輪線<u>及び伊那辰野停車場線、一般県道与地辰野線、町道 1 号線（広域農道）の機能強化に努める。</u></p> <p>また、<u>中央自動車道</u>伊北インターチェンジや駅前広場などの交通結節点及び地域の中心部や主要な広域的施設、観光・レクリエーション施設、さらには広域避難地などを有機的に連携する都市内交通体系の拡充を図る。</p> <p>これら広域幹線的な道路機能を補完し、<u>生活や産業を支える既成市街地内等の都市計画道路については、整備の促進に努め、道路網体系の整備により、交通利便性を高めるとともに、温室効果ガスの排出量削減を図り、低炭素都市づくりをめざす。</u></p> <p>なお、J R 飯田線各駅の駅前広場等については、交通結節点である<u>と</u>同時に、人と人との交流拠点としても捉える<u>とともに、高齢社会に対応するため、引き続き公共機関の再編や利用促進を図る。</u></p>
<p><u>ii. 整備水準の目標</u></p> <p>■道路</p> <p>骨格を成す道路を<u>整備し</u>交通処理機能の強化を図ると同時に、高齢社会の進行を見据えた歩行者移動空間のユニバーサルデザインの導入や地域の風土になじんだ樹種による緑化など、道路景観の演出などにも配慮する。</p> <p>＊ユニバーサルデザイン： 障害の有無、年齢、性別、国籍、人種等にかかわらず、多様な人々が気持ちよく使えるように、あらかじめ都市や生活環境を計画しようとする考え方</p>	<p><u>②整備水準の目標</u></p> <p>■道 路</p> <p><u>都市計画道路の見直しを行ったうえで、優先的に整備すべき</u>骨格を成す道路<u>の整備を行い、</u>交通処理機能の強化を図ると同時に、高齢社会の進行を見据えた歩行者移動空間のユニバーサルデザインの導入や地域の風土になじんだ樹種による緑化など、道路景観の演出などにも配慮する。</p> <p>＊ユニバーサルデザイン： 障害の有無、年齢、性別、国籍、人種等にかかわらず、多様な人々が気持ちよく使えるように、あらかじめ都市や生活環境を計画しようとする考え方</p>
<p>■駐車場</p> <p>駐車需要の高い J R 飯田線伊那松島駅周辺においては、収容台数 6 台の公共駐車場及び収容台数約 100 台の公共駐輪場が整備済みであるが、今後さらに、箕輪町中心市街地活性化基本計画に基づき整備を進める。</p>	<p>■駐車場</p> <p>駐車需要の高い J R 飯田線伊那松島駅周辺においては、収容台数 6 台の公共駐車場及び収容台数約 100 台の公共駐輪場が整備済みであるが、今後さらに、箕輪町中心市街地活性化基本計画に基づき整備を進める。</p>

箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表															
旧（現行計画）	新（変更計画）														
<div>(2)主要な施設の配置の方針</div> <div>ⅰ. 道路</div> <div>■主要幹線道路</div> <div>(広域的な都市間の交通流動を担う道路)</div> <div><div>・中央自動車道</div><div>・都市計画道路3. 3. 1 東部線（一般国道 153 号バイパス）</div><div>・都市計画道路3. 4. 2 国道線（一般国道 153 号）</div></div>	<div>(2)主要な施設の配置の方針</div> <div>① 道路</div> <div>■主要幹線道路</div> <div>県内外の圏域間を結ぶ広域的な交通、物流等の円滑な流れを担う道路、広域環状道路として市街地形成に寄与する道路、地域の振興、観光利用等の推進を図るための道路を主要幹線道路として位置付け、地域交通の利便性の向上、機能強化を図る。</div> <div><div>・中央自動車道</div><div>・都市計画道路 3・3・1 <u>号</u> 東部線（一般国道 153 号バイパス）</div><div>・都市計画道路 3・4・2 <u>号</u> 国道線（一般国道 153 号）</div></div>														
<div>■幹線道路</div> <div>(主要幹線を補完し、周辺都市との交流に対応し、本区域の都市構造の骨格形成を担う道路)</div> <div><div>・都市計画道路3. 5. 5 木下三日町線（一般県道美簗箕輪線、町道 8 号線）</div><div>・都市計画道路3. 5. 6 十沢線（主要地方道伊那辰野停車場線、町道 5 号線）</div><div>・都市計画道路3. 5. 7 南部西部線（一般県道美簗箕輪線、町道 4 号線）</div><div>・町道 1 号線（広域農道）</div></div> <div>■駅前広場</div> <div>● J R 飯田線伊那松島駅駅前広場←整備完了</div> <div>ii. 駐車場</div> <div>● J R 飯田線伊那松島駅南駐車場←整備完了</div> <div>● J R 飯田線木下駅西（末広商店街）駐車場←整備完了</div>	<div>■幹線道路</div> <div>主要幹線道路を補完し、周辺区域との交通や区域内を連絡し、都市構造の骨格形成を担う道路を幹線道路と位置付け、区域交通の利便性の向上、機能強化を図る。</div> <div><div>・都市計画道路 3・5・5 <u>号</u> 木下三日町線（一般県道美簗箕輪線、町道 8 号線）</div><div>・都市計画道路 3・5・6 <u>号</u> 十沢線（主要地方道伊那辰野停車場線、町道 5 号線）</div><div>・都市計画道路 3・5・7 <u>号</u> 南部西部線（一般県道美簗箕輪線、町道 4 号線）</div><div>・町道 1 号線（広域農道）</div></div>														
<div>(3)主要な施設の整備目標</div> <div>おおむね 10 年以内に整備を予定する施設等は、次のとおりとする。</div> <div>表－4. おおむね 10 年以内に整備を予定する施設</div> <table><tr><th>種 別</th><th>名称等</th></tr><tr><td rowspan="4">道 路</td><td>・都市計画道路3. 3. 1東部線(一般国道 153 号バイパス)</td></tr><tr><td>・都市計画道路3. 5. 6十沢線(町道5号線) ←整備完了</td></tr><tr><td>・都市計画道路3. 5. 7南部西部線(町道4号線) ←整備完了</td></tr><tr><td>・主要地方道伊那箕輪線</td></tr></table>	種 別	名称等	道 路	・都市計画道路3. 3. 1東部線(一般国道 153 号バイパス)	・都市計画道路3. 5. 6十沢線(町道5号線) ←整備完了	・都市計画道路3. 5. 7南部西部線(町道4号線) ←整備完了	・主要地方道伊那箕輪線	<div>(3)主要な施設の整備目標</div> <div>おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設等は、次のとおりとする。</div> <div>表－2. おおむね 10 年以内に整備を予定する施設</div> <table><tr><th>種 別</th><th>名称等</th></tr><tr><td rowspan="2">道 路</td><td>・都市計画道路 3・3・1号 東部線(一般国道 153 号バイパス)</td></tr><tr><td>・主要地方道伊那箕輪線</td></tr><tr><td></td><td>・主要地方道伊那辰野停車場線</td></tr></table>	種 別	名称等	道 路	・都市計画道路 3・3・1号 東部線(一般国道 153 号バイパス)	・主要地方道伊那箕輪線		・主要地方道伊那辰野停車場線
種 別	名称等														
道 路	・都市計画道路3. 3. 1東部線(一般国道 153 号バイパス)														
	・都市計画道路3. 5. 6十沢線(町道5号線) ←整備完了														
	・都市計画道路3. 5. 7南部西部線(町道4号線) ←整備完了														
	・主要地方道伊那箕輪線														
種 別	名称等														
道 路	・都市計画道路 3・3・1号 東部線(一般国道 153 号バイパス)														
	・主要地方道伊那箕輪線														
	・主要地方道伊那辰野停車場線														

箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表

旧（現行計画）	新（変更計画）										
<p>2)下水道及び河川の都市計画の決定の方針</p> <p>(1)基本方針</p> <p>i. 下水道及び河川の整備の方針</p> <p>これからの市街化の動向等を見据えつつ、河川等の水質保全とともに生活環境の改善を図り、健全な都市環境の形成を図る。</p> <p>また、降水時の雨水等の流出を抑制し、災害の発生を未然に防止すべく、森林や農地の保全を含む総合的な流出抑制策を講ずる。</p>	<p>2)下水道及び河川の都市計画の決定の方針</p> <p>(1) 基本方針</p> <p>①下水道及び河川の整備の方針</p> <p>これからの市街化の動向等を見据えつつ、河川等の水質保全とともに生活環境の改善を図り、健全な都市環境の形成を図る。</p> <p>また、降水時の雨水等の流出を抑制し、災害の発生を未然に防止すべく、森林や農地の保全を含む総合的な流出抑制策を講ずる。</p>										
<p>■下水道</p> <p>下水道施設については、公共下水道事業をはじめ浄化槽の設置などもあわせ、関連施設の景観性にも配慮しながらその普及率の拡大に努める。</p> <p>■河川</p> <p>河川については、流域内の土地利用の動向、地域社会と河川との関わり、市街地での水害に対する安全確保の状況等を踏まえた治水対策を進める。</p>	<p>■下水道</p> <p>下水道（汚水）については、公共下水道事業及び浄化槽の設置など整備普及に努める。下水道（雨水）については、雨水対策事業を進める。</p> <p>■河 川</p> <p>河川については、流域内の土地利用の動向、地域社会と河川との関わり、市街地での水害に対する安全確保の状況等を踏まえた治水対策を進める。</p>										
<p>ii. 整備水準の目標</p> <p>■下水道</p> <p>既成市街地や市街地整備事業が行われる地区などを優先しつつ、計画区域内の面整備を完了させる。</p> <p>■河川</p> <p>本都市の河川は、一級河川の治水機能の向上をめざすとともに、その他河川をも含め、親水性の向上と周辺環境と調和した多自然型の整備に努める。</p>	<p>②整備水準の目標</p> <p>■下水道</p> <p>下水道(汚水)については、未普及地域について整備を進め、計画区域内の面整備を完了させる。下水道（雨水）については、整備を進める。</p> <p>■河 川</p> <p>河川については、一級河川の治水機能の向上をめざすとともに、その他河川を含め、親水性の向上と周辺環境や景観と調和した多自然川づくりに努める。</p>										
<p>(2)主要な施設の配置の方針</p> <p>■下水道</p> <p>本都市の公共下水道は分流式とし、木下、松島、大出、沢、下古田、八乙女地区などを対象として整備を進める。</p> <p>箕輪浄水苑は、人口の定着状況や処理区域内の面的整備事業などの進捗にあわせ、段階的に整備する。</p> <p>■河川</p> <p>一級河川については、河川の適正な維持管理、災害時の迅速な対応及び水防活動等への協力などに努め、民生の安定を図る。</p> <p>また、河川整備計画に基づいて治水安全度の向上に努める。</p>	<p>(2) 主要な施設の配置の方針</p> <p>■下水道</p> <p>公共下水道は分流式とし、未普及地区について引き続き整備を進める。豪雨時における災害発生を防止すべく、沢・大出・松島地区の雨水管渠整備を進める。</p> <p>箕輪浄水苑は、人口の定着状況や処理区域内の面的整備事業などの進捗にあわせ、段階的に整備する。</p> <p>■河 川</p> <p>一級河川については、河川の適正な維持管理、災害時の迅速な対応及び水防活動等への協力などに努め、民生の安定を図る。</p> <p>また、河川整備計画に基づいて治水安全度の向上に努める。</p>										
<p>(3)主要な施設の整備目標</p> <p>おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設等は、次のとおりとする。</p> <p>表－5. おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設</p> <table><tr><th>種 別</th><th>名称等</th></tr><tr><td rowspan="2">下水道</td><td>箕輪町公共下水道箕輪処理区</td></tr><tr><td>箕輪町特定環境保全公共下水道北部処理区</td></tr></table>	種 別	名称等	下水道	箕輪町公共下水道箕輪処理区	箕輪町特定環境保全公共下水道北部処理区	<p>(3)主要な施設の整備目標</p> <p>おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設等は、次のとおりとする。</p> <p>表－3. おおむね 10 年以内に整備することを予定する施設</p> <table><tr><th>種 別</th><th>名称等</th></tr><tr><td rowspan="2">下水道</td><td>箕輪町公共下水道箕輪処理区(汚水及び雨水)</td></tr><tr><td>箕輪町特定環境保全公共下水道北部処理区(汚水及び雨水)</td></tr></table>	種 別	名称等	下水道	箕輪町公共下水道箕輪処理区(汚水及び雨水)	箕輪町特定環境保全公共下水道北部処理区(汚水及び雨水)
種 別	名称等										
下水道	箕輪町公共下水道箕輪処理区										
	箕輪町特定環境保全公共下水道北部処理区										
種 別	名称等										
下水道	箕輪町公共下水道箕輪処理区(汚水及び雨水)										
	箕輪町特定環境保全公共下水道北部処理区(汚水及び雨水)										

箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表

旧（現行計画）				新（変更計画）													
<p>3)その他の都市施設の都市計画の決定の方針</p> <p>(1)基本方針</p> <p><u>都市計画決定を必要としないが、健康で文化的な都市環境の向上と良好な生活環境の確保をめざし、人口動態や市街化状況などに応じながら長期的展望から必要と判断されるその他の施設の整備を図る。</u></p>																	
<p>(2)主要な施設の配置の方針</p> <p>①中央自動車道伊北インターチェンジ周辺開発</p> <p><u>新たな工業系土地需要に対応するため、広域交通利便性の高い中央自動車道伊北インターチェンジ隣接部に工業・流通団地の整備を検討する。</u></p>																	
<p>②既存工業団地の拡大整備</p> <p><u>工業専用地域内への集積を促進するための社会基盤施設整備の他、新たな工業系土地需要に対応するため、中央自動車道伊北インターチェンジ隣接部とともに、既存の帯無工業団地、南原工業団地、東河原地区の工業集積地、さらには伊那バイパス周辺部への新規団地の拡大整備を検討する。</u></p>																	
<p>③既存集落隣接地の住宅地開発</p> <p><u>新たな住宅需要に対応するため、既存集落隣接地を基本とし、都市基盤施設の整った低層戸建住宅地に整備することを検討する。</u></p>																	
<p>ー3. 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針</p> <p>(1)基本方針</p> <p>上伊那圏域は、2つのアルプスをはじめとする山岳地域と天竜川に面して広大な広がりをして いる農業地域とにより、特徴的な自然的環境を有している。</p> <p>これら自然的環境を形成する緑地や公園は、圏域あるいは各都市のなかで、環境保全機能をは じめ、レクリエーション機能、防災機能、景観構成機能など、立地特性や利用特性に応じた様々 な役割を担っている。</p> <p>よって、これら自然的環境資源については、期待する機能ごとに系統化して捉え、各機能のよ り効果的な活用に努める。</p>				<p><u>3ー3. 自然的環境の整備又は保全に関する都市計画の決定の方針</u></p> <p>1)基本方針</p> <p>上伊那圏域は、2つのアルプスをはじめとする山岳地域と天竜川に面して広大な広がりをして いる農業地域とにより、特徴的な自然的環境を有している。</p> <p>これら自然的環境を形成する緑地や公園は、圏域あるいは各都市のなかで、環境保全機能をは じめ、レクリエーション機能、防災機能、景観構成機能など、立地特性や利用特性に応じた様々 な役割を担っている。</p> <p>よって、これら自然的環境資源については、期待する機能ごとに系統化して捉え、各機能のよ り効果的な活用に努める <u>とともに、本区域全般の自然的環境について生物多様性の保全を図り、人と自然が共生する都市づくりをめざす。</u></p>													
<p>【緑地の確保水準目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・都市にうるおいやすらぎをもたらす緑の骨格的資源である森林地帯の保全・育成、公園緑地等 の整備・保全を図る。・市街地周辺に広がる田園地帯や森林地帯に入り組んだ<u>谷戸部</u>に連なる集落地域等については、自然環境と一体的に捉えた環境整備を図る。・天竜川や沢川、深沢川などの主要な河川については、治水機能にも十分留意しながら親水性の向上に努める。				<p>【緑地の確保水準目標】</p> <ul style="list-style-type: none">・都市にうるおいやすらぎをもたらす緑の骨格的資源である森林地帯の保全・育成、公園緑地等 の整備・保全を図る。・市街地周辺に広がる田園地帯や森林地帯に入り組んだ<u>田切地形</u>に連なる集落地域等については、自然環境と一体的に捉えた環境整備を図る。・天竜川や沢川、深沢川などの主要な河川については、治水機能にも十分留意しながら親水性の向上に努める。													
<p>表ー 6. 緑地確保目標水準</p> <table><tr><td rowspan="2">緑地の確保目標水準 平成 32 年</td><td>将来市街地に対する割合</td><td>都市計画区域に対する割合</td></tr><tr><td>約 20% (約 120ha)</td><td>約 20% (約 3,160 ha)</td></tr></table>				緑地の確保目標水準 平成 32 年	将来市街地に対する割合	都市計画区域に対する割合	約 20% (約 120ha)	約 20% (約 3,160 ha)	<p>表ー 4. 緑地確保目標水準</p> <table><tr><td rowspan="2">緑地の確保目標水準 平成 32 年</td><td>将来市街地に対する割合</td><td>都市計画区域に対する割合</td></tr><tr><td>約 20% (約 120ha)</td><td>約 20% (約 3, 160ha)</td></tr></table>				緑地の確保目標水準 平成 32 年	将来市街地に対する割合	都市計画区域に対する割合	約 20% (約 120ha)	約 20% (約 3, 160ha)
緑地の確保目標水準 平成 32 年	将来市街地に対する割合	都市計画区域に対する割合															
	約 20% (約 120ha)	約 20% (約 3,160 ha)															
緑地の確保目標水準 平成 32 年	将来市街地に対する割合	都市計画区域に対する割合															
	約 20% (約 120ha)	約 20% (約 3, 160ha)															
<p>表ー 7. 都市公園等の施設として整備すべき緑地の目標水準</p> <table><tr><td rowspan="2">都市計画区域人口1 人当たり目標水準</td><td>現状(平成 13 年)</td><td>平成 22 年</td><td>平成 32 年</td></tr><tr><td>4.5 m²/人</td><td>5.5 m²/人</td><td>6.5 m²/人</td></tr></table>				都市計画区域人口1 人当たり目標水準	現状(平成 13 年)	平成 22 年	平成 32 年	4.5 m ² /人	5.5 m ² /人	6.5 m ² /人							
都市計画区域人口1 人当たり目標水準	現状(平成 13 年)	平成 22 年	平成 32 年														
	4.5 m ² /人	5.5 m ² /人	6.5 m ² /人														

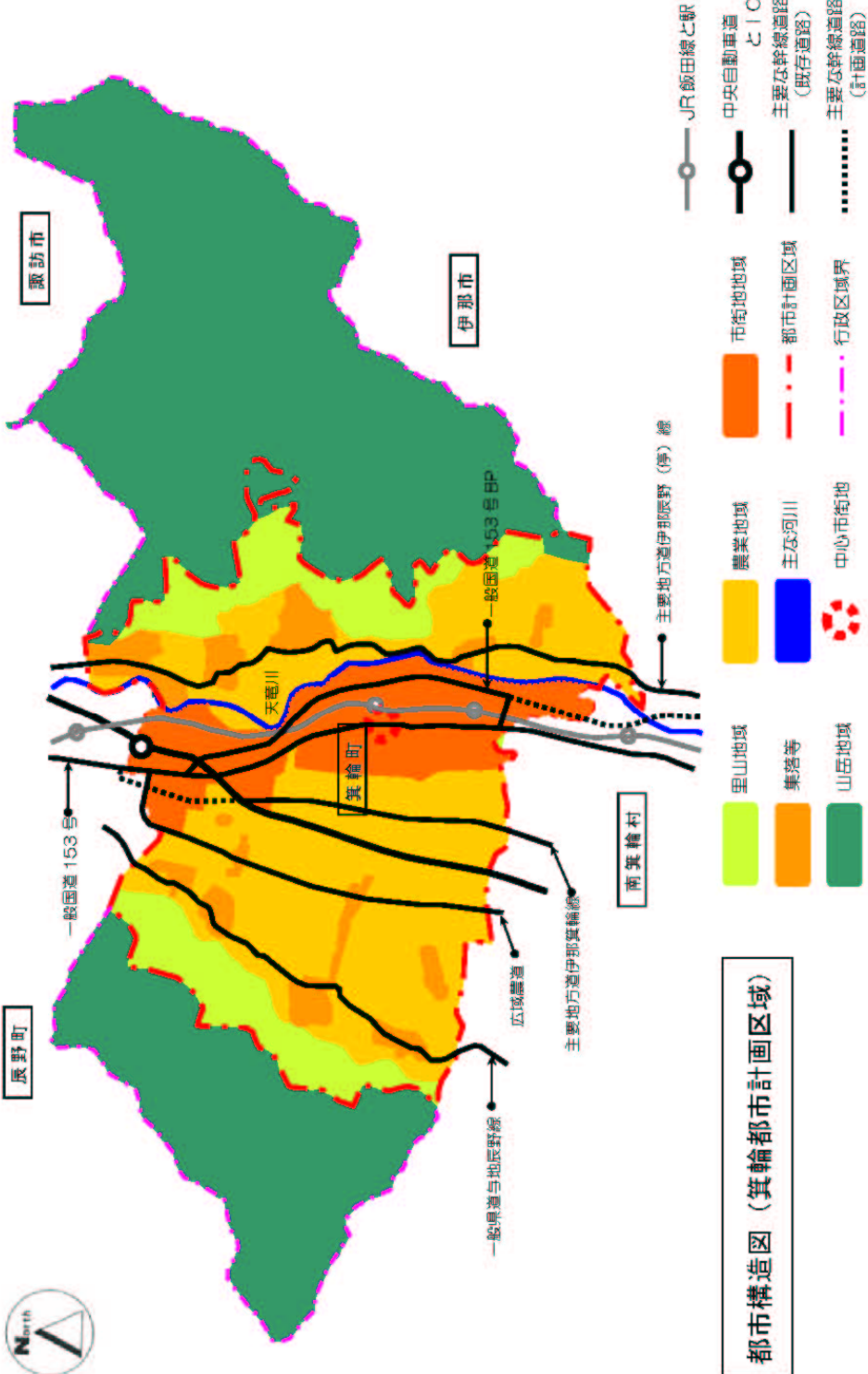
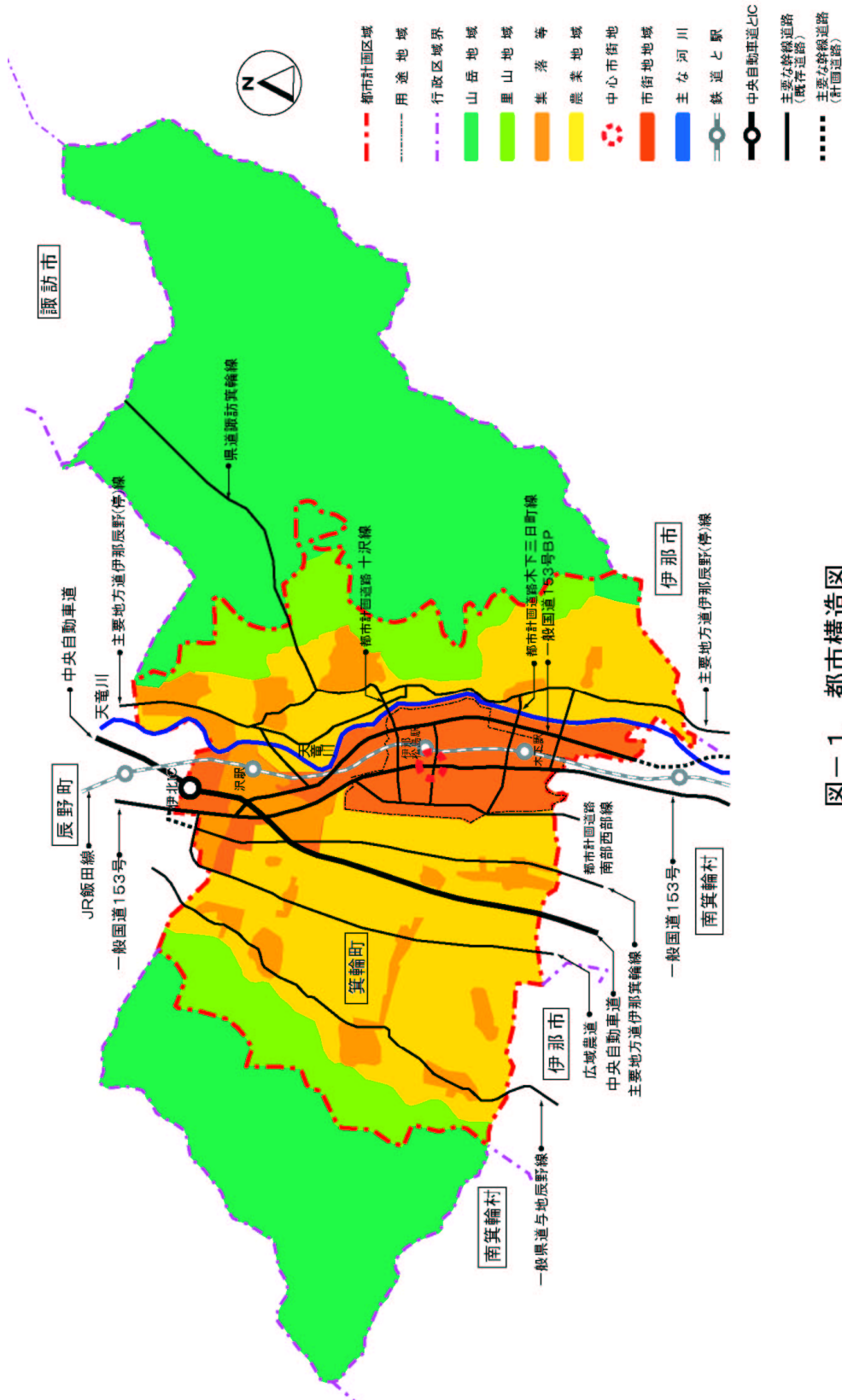
箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表

旧（現行計画）	新（変更計画）
<p>2)主要な緑地の配置の方針</p> <p>(1)環境保全系統</p> <p>①森林地帯</p> <p>本都市外縁の森林地帯は、伊那谷らしさを象徴する骨格的緑地として位置づけ、動植物の生息・生育地や都市的活動による環境負荷を軽減する場など、その存在機能を将来的にも保持・継承すべく、保全に努める。</p>	<p>2)主要な緑地の配置の方針</p> <p>(1)環境保全系統</p> <p>①森林地帯</p> <p>本都市外縁の森林地帯は、伊那谷らしさを象徴する骨格的緑地として位置づけ、動植物の生息・生育地や都市的活動による環境負荷を軽減する場など、その存在機能を将来的にも保持・継承すべく、保全に努める。</p>
<p>②天竜川・沢川他、河川沿い</p> <p>天竜川やもみじ湖を含む沢川などの主要な河川及びその周辺は、都市にうるおいと安らぎをもたらす水と緑の環境軸として、緑の拠点等を効果的に連携するネットワーク（緑道や<u>サイクリング</u>ロード等を含む）の形成に努める。</p>	<p>② 天竜川・沢川他、河川沿い</p> <p>天竜川やもみじ湖を含む沢川などの主要な河川及びその周辺は、都市にうるおいと安らぎをもたらす水と緑の環境軸として<u>位置づけ</u>、緑の拠点等を効果的に連携するネットワーク（緑道や<u>ウォーキング</u>ロード等を含む）の形成に努める。</p>
<p>③集落・農業地帯</p> <p>集落内の屋敷林や河岸段丘の斜面林及び農業地帯は、森林地帯と一対として伊那谷らしさを象徴する自然的環境地帯として位置づけ、<u>遊休農地</u>や耕作放棄地などの有効利活用も含め、その保全、多機能化を図る。</p>	<p>③集落・農業地帯</p> <p>集落内の屋敷林や<u>段丘崖緑地</u>及び農業地帯は、森林地帯と一対として伊那谷らしさを象徴する自然的環境地帯として位置づけ、耕作放棄地などの有効利活用<u>を</u>含め、その保全、多機能化を図る。</p>
<p>(2)レクリエーション系統</p> <p>①都市公園</p> <p>総合公園や運動公園などの都市基幹公園は、都市内に暮らす人々を主な利用対象とする主要レクリエーション拠点として位置づけ、導入機能等については多様化するレクリエーション需要への的確な対応に努める。</p> <p>また、街区公園や近隣公園などの住区基幹公園については、最も身近な、歩いて行ける屋外レクリエーション拠点として位置づけ、高齢者福祉の推進や子育て環境の充実などの社会的な要請に留意しつつ、市街地内における貴重な開放空間としての活用を図る。</p> <p>さらに、これら都市公園は、公共公益施設や観光・レクリエーション施設なども含め、各種拠点を有機的に連携する歩行者系ネットワークの形成に努める。</p>	<p>(2)レクリエーション系統</p> <p>①都市公園</p> <p>総合公園や運動公園などの都市基幹公園は、都市内に暮らす人々を主な利用対象とする主要レクリエーション拠点として位置づけ、導入<u>する</u>機能等については多様化するレクリエーション需要への的確な対応に努める。</p> <p>また、街区公園や近隣公園などの住区基幹公園については、最も身近<u>で</u>歩いて行ける屋外レクリエーション拠点として位置づけ、高齢者福祉の推進や子育て環境の充実などの社会的な要請に留意しつつ、市街地内における貴重な開放空間としての活用を図る。</p> <p>さらに、これら都市公園は、公共公益施設や観光・レクリエーション施設なども含め、各種拠点を有機的に連携する歩行者系ネットワークの形成に努める。</p>
<p>②観光・レクリエーション資源</p> <p>森林地域や農業地域内などに点在する観光・レクリエーション資源等は、地域に暮らす人々はもとより、域外より訪れる観光客も対象とした人と人、あるいは人と自然との交流拠点として位置づけ、都市特有の既存資源として活用を図る。</p>	<p>②観光・レクリエーション資源</p> <p>森林地域や農業地域内などに点在する観光・レクリエーション資源等は、地域に暮らす人々はもとより、域外より訪れる観光客も対象とした人と人、あるいは人と自然との交流拠点として位置づけ、都市特有の既存資源として活用を図る。</p>
<p>③里山地域と農業地域</p> <p>市街地に近接する里山地域や農業地域は、林業や農業の場であると同時に、自然体験の場として位置づけ、自然環境等との調和・共存を図りつつ、交流機能やレクリエーション機能など、新たな多面的機能の導入により、景観的な荒廃を抑制しながら地域特性を活かした積極的な活用に努める。</p>	<p>③里山地域と農業地域</p> <p>市街地に近接する里山地域や農業地域は、林業や農業の場であると同時に、自然体験の場として位置づけ、自然環境等との調和・共存を図りつつ、交流機能やレクリエーション機能など、新たな多面的機能の導入により、景観的な荒廃を抑制しながら、地域特性を活かした積極的な活用に努める。</p>

箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表

旧（現行計画）	新（変更計画）
<p>(3)防災系統</p> <p>①市街地地域</p> <p>市街地内については、大規模災害時における災害対策機能（一次避難地や広域避難場所等）にも十分留意しつつ、都市公園等の災害対策機能の強化を図る。</p> <p>また、歩行者等に対する移動快適性の向上とともに、市街地内環境の向上や市街地における骨格的な開放空間としての風格ある景観の創出、さらに、大規模火災時などにおける延焼遮断機能なども<u>期待</u>し、道路の緑化に努める。</p>	<p>(3)防災系統</p> <p>①市街地地域</p> <p>市街地内については、大規模災害時における災害対策機能（一次避難地や広域避難場所等）にも十分留意しつつ、都市公園等の災害対策機能の強化を図る。</p> <p>また、歩行者等に対する移動快適性の向上とともに、市街地内環境の向上や市街地における骨格的な開放空間としての風格ある景観の創出、さらに、大規模火災時などにおける延焼遮断機能なども<u>考慮</u>し、道路の緑化に努める。</p>
<p>②森林地域</p> <p>がけ崩れ等、山岳地形の崩壊はもとより、降水時等における河川への負担を軽減する貯水機能をも確保するため、間伐等の手入れが遅れ荒廃の<u>恐れ</u>がある森林も含め、よりまとまりある規模での樹林の保全に努める。</p>	<p>②森林地域</p> <p>がけ崩れ等、山岳地形の崩壊はもとより、降水時等における河川への負担を軽減する貯水機能も確保するため、間伐等の手入れが遅れ荒廃の<u>おそれ</u>がある森林も含め、よりまとまりある規模での樹林の保全に努める。</p>
<p>③工業地等</p> <p><u>工業用地等については、騒音や振動などの周辺部に対する環境阻害の軽減等をはかるとともに、災害時における被災規模の抑制効果をも期待し、周辺景観との調和にも留意しつつ、敷地内緑化の拡充に向けた誘導に努める。</u></p>	
<p>(4)景観構成系統</p> <p>①山並み景観</p> <p>雄大な景観を有する森林地帯は、本都市並びに上伊那圏域の骨格的な景観資源であることから、レクリエーション機能や防災機能なども勘案しながら地域性豊かな自然景観の保全に努める。</p>	<p>(4)景観構成系統</p> <p>①山並み景観</p> <p>雄大な景観を有する森林地帯は、本都市並びに上伊那圏域の骨格的な景観資源であることから、レクリエーション機能や防災機能なども勘案しながら、地域性豊かな自然景観の保全に努める。</p>
<p>②田園等景観</p> <p>農業地域は、森林地域や里山地域とともに、古くより受け継がれてきた地域を象徴する景観であることから、観光・レクリエーション機能の導入などによる多機能化と調整を図りながら郷土的景観の保全に努める。</p>	<p>②田園等の景観</p> <p>農業地域は、森林地域や里山地域とともに、古くより受け継がれてきた地域を象徴する景観であることから、観光・レクリエーション機能の導入などによる多機能化と調整を図りながら、郷土的景観の保全に努める。</p>
<p>③水辺の景観</p> <p>河川については、多自然<u>型</u>の改修事業などにより、親水性の確保と同時に、周辺環境・景観との調和に努める。</p>	<p>③水辺の景観</p> <p>河川については、多自然<u>川づくりに配慮した</u>改修事業などにより、親水性の確保と同時に、周辺環境・景観との調和に努める。</p>
<p>④街並み景観</p> <p>市街地等については、緑化協定や景観形成住民協定などの制定をも視野に入れつつ、都市公園や道路緑化などを<u>も</u>活かしながら、周辺環境と調和したうるおいのある街並み景観の創出・維持に努める。</p>	<p>④街並み景観</p> <p>市街地等については、緑化協定や景観<u>育成</u>住民協定などの<u>締結を</u>視野に入れつつ、都市公園や道路緑化なども活かしながら、周辺環境と調和したうるおいのある街並み景観の創出・維持に努める。</p>
<p>3)実現のための具体の都市計画制度の方針</p> <p>(1)公園緑地等の配置方針と整備目標</p> <p>主要な公園については、都市計画施設として適正に配置し、整備を図る。</p>	<p>3)実現のための具体の都市計画制度の方針</p> <p>(1)公園緑地等の整備目標<u>及び</u>配置方針</p> <p>主要な公園については、都市計画施設として適正に配置し、整備を図る。</p>
<p>(2)緑地保全地区等の指定方針及び指定目標</p> <p>もみじ湖周辺及び、その上流域については、箕輪町水源保護条例に基づき、緑地の保全を図っていく。</p> <p>また、市街地内や集落地内等における屋敷林、鎮守の森・境内林などについては、風致地区などへの指定を検討する。</p>	<p>(2)緑地保全<u>地域</u>等の指定目標及び指定方針</p> <p>もみじ湖周辺及び、その上流域については、箕輪町水源保護条例に基づき、緑地の保全を図って行く。</p> <p>また、市街地内や集落地内等における屋敷林、鎮守の森・境内林・<u>段丘崖緑地</u>などについては、風致地区などへの指定を検討する。</p>

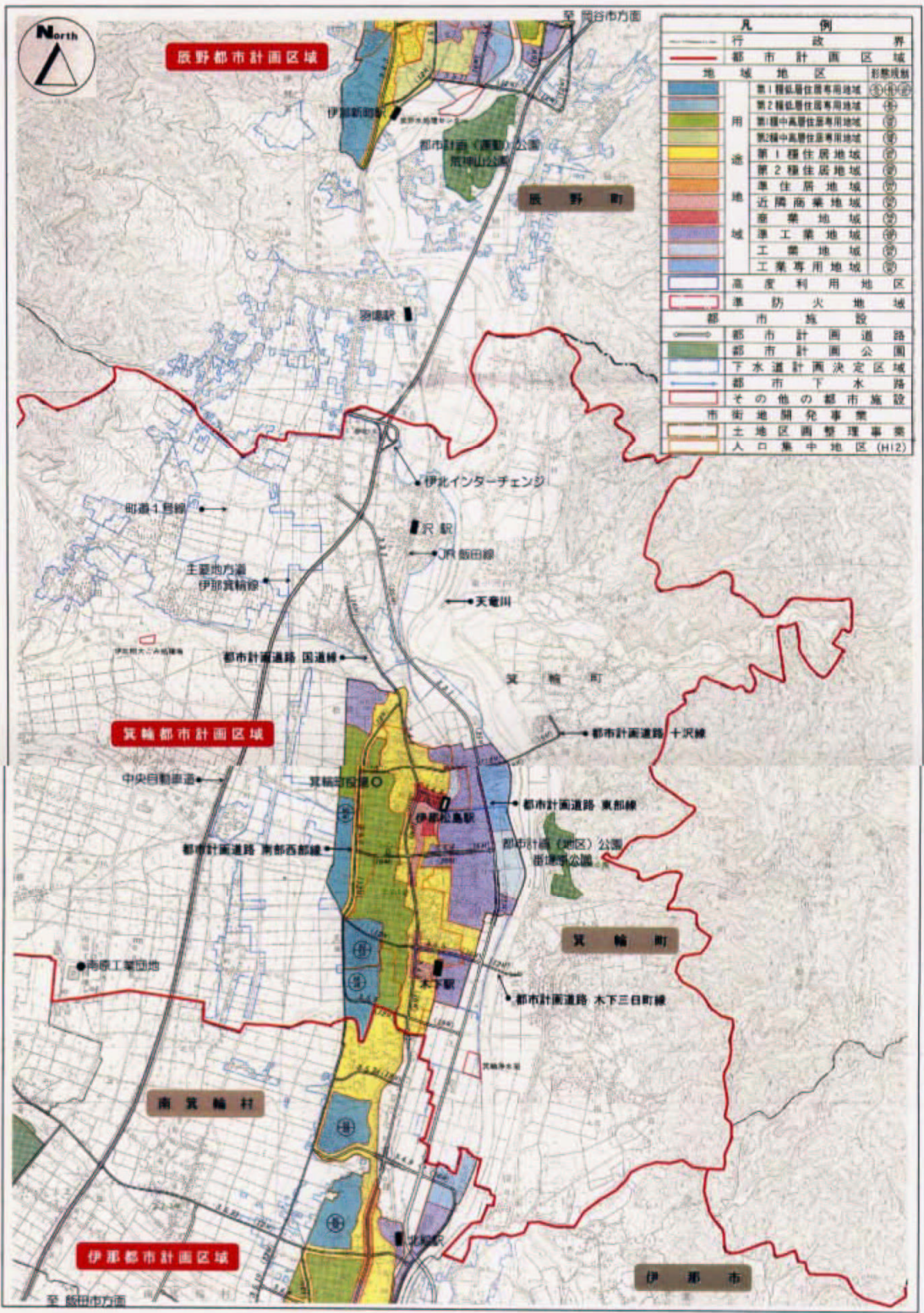
箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表

旧（現行計画）	新（変更計画）
<div data-bbox="691 233 1023 302">都市計画マスタープラン附図 都市構造図</div> <div data-bbox="359 365 397 1304">現行箕輪都市計画区域マスタープラン 1. 都市計画の目標 -3. 都市づくりの基本理念</div>  <div data-bbox="1175 1325 1213 1724">都市構造図（箕輪都市計画区域）</div> <div data-bbox="1323 936 1353 1142">図-1. 都市の将来像</div>	<div data-bbox="2012 233 2344 302">都市計画マスタープラン附図 都市構造図</div>  <div data-bbox="2599 963 2638 1228">図-1. 都市構造図</div>

箕輪都市計画(箕輪町) 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針(案) 新旧対照表

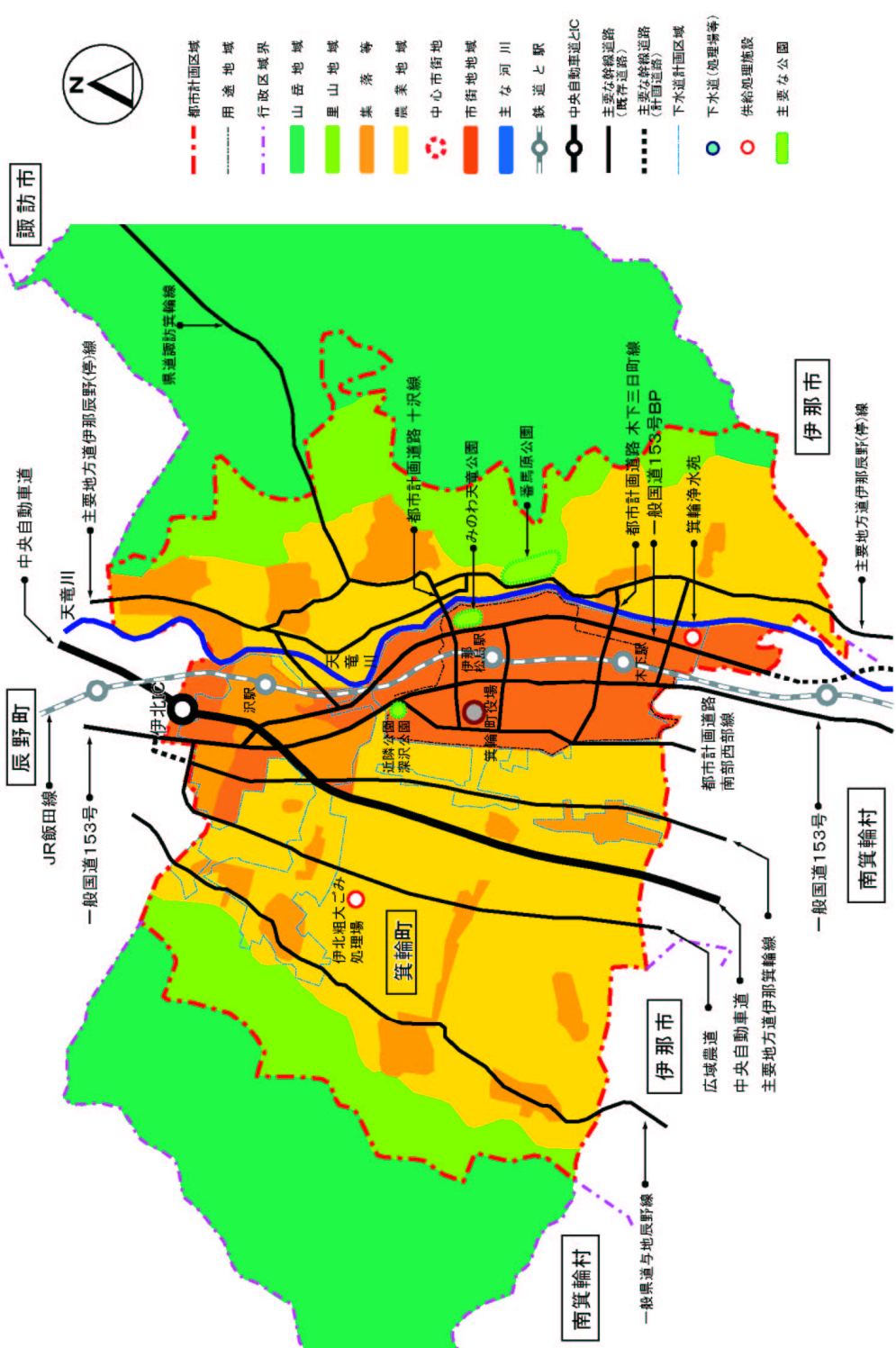
旧（現行計画）	新（変更計画）
---------	---------

都市計画マスタープラン附図
都市施設等配置図



図－２．都市計画の方針

都市計画マスタープラン附図
都市施設等配置図



図－２．都市施設等配置図

都市計画策定の経緯の概要

箕輪都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針の変更（長野県決定）

事 項	時 期	備 考
公聴会のための素案の閲覧	平成 23 年 10 月 6 日（木）から 平成 23 年 10 月 28 日（金）まで	公述申出なし につき中止
公聴会 （都市計画法第 16 条第 1 項）	平成 23 年 10 月 29 日（土）	
関東地方整備局長事前協議	平成 23 年 12 月 2 日（金）	
関東地方整備局長事前協議回答	平成 23 年 12 月 26 日（月）	
市町村意見聴取 （都市計画法第 18 条第 1 項）	平成 23 年 12 月 26 日（月）	
計画案の公告 （都市計画法第 17 条第 1 項）	平成 24 年 1 月 10 日（火）	
計画案の縦覧 （都市計画法第 17 条第 1 項）	平成 24 年 1 月 10 日（火）から 平成 24 年 1 月 24 日（火）まで	
市町村意見聴取回答	平成 24 年 1 月 20 日（金）	（以下予定）
長野県都市計画審議会 （都市計画法第 18 条第 1 項）	平成 24 年 2 月 9 日（木）	
国土交通大臣本協議 （都市計画法第 18 条第 3 項）	平成 24 年 2 月 下旬	
国土交通大臣本協議回答	平成 24 年 3 月 下旬	
決定告示 （都市計画法第 20 条第 1 項）	平成 24 年 3 月 下旬	